AirStation
導入ガイド

本製品をご使用になる前に

本製品を以下の環境でご使用になる場合、本製品の VPN 機能は使用できません。あらかじめご了承ください。

・ プロバイダから割り当てられる IP アドレスがプライベート IP アドレスの場合
・ ルータ機能を内蔵したADSLモデムに本製品を接続して使用する場合（※）

※ルータ機能を無効にするなど、ADSL モデムの設定を変更すると、本製品の VPN 機能が使用できることがあります。設定変更については、ADSL モデムのマニュアルをご参照ください。

本書の使い方

本書を正しくお使いいただくための表記上の約束ごとを説明します。

■文中マーク／用語表記

⚠注意 **マーク** 製品の取り扱いにあたって注意すべき事項です。 この注意事項に従わなかった場合、 身体や製品に損傷を与えるおそれがあります。

メモ **マーク** 製品の取り扱いに関する補足事項、 知っておくべき事項です。

▶参照 **マーク** 関連のある項目のページを記しています。

・文中 [ ] で囲んだ名称は、 操作の際に選択するメニュー、 ボタン、 テキストボックス、 チェックボックスなどの名称を表わしています。

■ 本書の著作権は弊社に帰属します。 本書の一部または全部を弊社に無断で転載、 複製、 改変などを行うことは禁じられております。

■ BUFFALO™、 AirStation™ は、 株式会社バッファローの商標です。 本書に記載されている他社製品名は、 一般に各社の商標または登録商標です。本書では、 ™、 ®、 © などのマークは記載していません。

■ 本書に記載された仕様、 デザイン、 その他の内容については、 改良のため予告なしに変更される場合があり、現に購入された製品とは一部異なることがあります。

■ 本書の内容に関しては万全を期して作成していますが、 万一ご不審な点や誤り、 記載漏れなどがありましたら、お買い求めになった販売店または弊社サポートセンターまでご連絡ください。

■ 本製品は一般的なオフィスや家庭の OA 機器としてお使いください。 万一、 一般 OA 機器以外として使用されたことにより損害が発生した場合、 弊社はいかなる責任も負いかねますので、 あらかじめご了承ください。
- ・ 医療機器や人命に直接的または間接的に関わるシステムなど、 高い安全性が要求される用途には使用しないでください。
- ・ 一般 OA 機器よりも高い信頼性が要求される機器や電算機システムなどの用途に使用するときはご使用になるシステムの安全設計や故障に対する適切な処置を万全におこなってください。

■ 本製品は、 日本国内でのみ使用されることを前提に設計、 製造されています。 日本国外では使用しないでください。 また、 弊社は、 本製品に関して日本国外での保守または技術サポートを行っておりません。

■ 本製品のうち、 外国為替および外国貿易法の規定により戦略物資等 （または役務） に該当するものについては、日本国外への輸出に際して、 日本国政府の輸出許可 （または役務取引許可） が必要です。

■ 本製品の使用に際しては、 本書に記載した使用方法に沿ってご使用ください。 特に、 注意事項として記載された取扱方法に違反する使用はお止めください。

■ 弊社は、製品の故障に関して一定の条件下で修理を保証しますが、記憶されたデータが消失・破損した場合については、保証しておりません。本製品がハードディスク等の記憶装置の場合または記憶装置に接続して使用するものである場合は、本書に記載された注意事項を遵守してください。また、必要なデータはバックアップを作成してください。お客様が、本書の注意事項に違反し、またはバックアップの作成を怠ったために、データを消失・破棄に伴う損害が発生した場合であっても、弊社はその責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

■ 本製品に起因する債務不履行または不法行為に基づく損害賠償責任は、 弊社に故意または重大な過失があった場合を除き、 本製品の購入代金と同額を上限と致します。

■ 本製品に隠れた瑕疵があった場合、 無償にて当該瑕疵を修補し、 または瑕疵のない同一製品または同等品に交換致しますが、 当該瑕疵に基づく損害賠償の責に任じません。

安全にお使いいただくために必ずお守りください

お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぎ、本製品を安全にお使いいただくために守っていただきたい事項を記載しました。
正しく使用するために、必ずお読みになり、内容をよく理解された上でお使いください。なお、本書には弊社製品だけでなく、弊社製品を組み込んだパソコンシステム運用全般に関する注意事項も記載されています。
パソコンの故障 / トラブルや、いかなるデータの消失・破損または、取り扱いを誤ったために生じた本製品の故障 / トラブルは、弊社の保証対象には含まれません。あらかじめご了承ください。

■使用している表示と絵記号の意味

警告表示の意味

⚠警告	絶対に行ってはいけないことを記載しています。この表示の注意事項を守らないと、使用者が死亡または、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示の注意事項を守らないと、使用者がけがをしたり、物的損害の発生が考えられる内容を示しています。

絵記号の意味

△	△は、警告・注意を促す記号です。△の近くに具体的な警告内容が描かれています。（例：⚠感電注意）
⃠	○に斜線は、してはいけない事項（禁止事項）を示す記号です。 ○の中や近くに、具体的な禁止事項が描かれています。（例：⃠分解禁止）
●	●は、しなければならない行為を示す記号です。 ●の近くに、具体的な指示内容が描かれています。 （例：●電源プラグをコンセントから抜く）

⚠警告

分解禁止

本製品の分解や改造や修理を自分でしないでください。
火災や感電の恐れがあります。

強制

ケーブル、コネクタ類に小さなお子様の手が届かないように機器を配置してください。
けがをする危険があります。

禁止

濡れた手で本製品に触れないでください。
感電、故障の原因となります。

禁止

AC100V(50/60Hz) 以外の AC コンセントには、 絶対にプラグを差し込まないでください。

海外などで異なる電圧で使用すると、 ショートしたり、 発煙、 火災の恐れがあります。

電源プラグを抜く

煙が出たり変な臭いや音がしたら、 パソコンおよび周辺機器の電源スイッチを OFF にし、 AC コンセントから電源プラグを抜いてください。

そのまま使用を続けると、 ショートして火災になったり、 感電する恐れがあります。

弊社またはお買い求めの販売店にご相談ください。

電源プラグを抜く

本製品を落としたり、 衝撃を与えたりしないでください。

衝撃を与えてしまったときは、 本製品が故障して、 火災や感電の原因となります。

弊社またはお買い求めの販売店にご相談ください。

水場での使用禁止

風呂場など、 水分や湿気の多い場所では、 本製品を使用しないでください。

火災になったり、 感電する恐れがあります。

電源プラグを抜く

液体や異物などが内部に入ったら、 AC コンセントからプラグを抜いてください。

そのまま使用を続けると、 ショートして火災になったり、 感電する恐れがあります。

弊社またはお買い求めの販売店にご相談ください。

禁止

電源ケーブルを傷つけたり、 加工、 加熱、 修復しないでください。

火災になったり、 感電する恐れがあります。

- ●設置時に、 電源ケーブルを壁やラック (棚) などの間にはさみ込んだりしないでください。
- ●重いものをのせたり、 引っ張ったりしないでください。
- ●熱器具に近づけたり、 過熱しないでください。
- ●電源ケーブルを抜くときは、 必ずプラグを持って抜いてください。
- ●極端に曲げないでください。
- ●電源ケーブルを接続したまま、 機器を移動しないでください。

万一、 電源ケーブルが傷んだら、 弊社サポートセンターまたは、 お買い求めの販売店にご相談ください。

強制

AC アダプタは、 AC コンセントに完全に差し込んでください。

差し込みが不完全なまま使用するとショートや発熱の原因となり、火災や感電の恐れがあります。

強制

電源ケーブル (または AC アダプタ)、 信号ケーブルは必ず本製品付属のものをお使いください。

本製品付属以外の電源ケーブル (内部接続用を含む)、 AC アダプタ、 信号ケーブルをご使用になると電圧や端子の極性が異なることがあるため、 発煙、 発火の恐れがあります。

⚠注意

強制

静電気による破損を防ぐため、 本製品に触れる前に、 身近な金属 （ドアノブやアルミサッシなど） に手を触れて、 身体の静電気を取り除くようにしてください。

人体などからの静電気は、 本製品を破損、 またはデータを消失 ・ 破損させる恐れがあります。

禁止

次の場所には、 設置および保管をしないでください。 感電、 火災の原因となったり、 製品に悪影響を及ぼすことがあります。

・強い磁界、 静電気が発生するところ
　故障の原因となります。
・振動が発生するところ
　けが、 故障、 破損の原因となります。
・平らでないところ
　転倒したり落下して、 けが、 故障の原因となります。
・直射日光が当たるところ
　故障や変形の原因となります。
・火気の周辺、 または熱気のこもるところ
　故障や変形の原因となります。
・漏電、 漏水の危険があるところ
　故障や感電の原因となります。
・ほこりの多いところ
　故障の原因となります。

強制

本製品に接続されているケーブルに足を引っかけたり、引っ張ったりしないでください。

本製品の破損や思わぬけがを招く恐れがあります。

強制

本製品を廃棄するときは、 地方自治体の条例に従ってください。

条例の内容については、 各地方自治体にお問い合わせください。

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意
（お客様の権利（プライバシー保護）に関する重要な事項です！）

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してパソコン等と無線アクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。
その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● **通信内容を盗み見られる**

悪意ある第三者が、電波を故意に傍受し、IDやパスワード又はクレジットカード番号等の個人情報、メールの内容等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

● **不正に侵入される**

悪意ある第三者が、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスし、個人情報や機密情報を取り出す（情報漏洩）
特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
コンピュータウィルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）
などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線アクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

無線LAN機器は、購入直後の状態においては、セキュリティに関する設定が施されていない場合があります。
従って、お客様がセキュリティ問題発生の可能性を少なくするためには、無線LANカードや無線LANアクセスポイントをご使用になる前に、必ず無線LAN機器のセキュリティに関する全ての設定をマニュアルにしたがって行ってください。
なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用下さい。
セキュリティの設定などについて、お客様ご自分で対処できない場合には、「BUFFALOサポートセンター」までお問い合わせ下さい。

当社では、お客様がセキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を充分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをお奨めします。

社団法人　電子情報技術産業協会（JEITA）
「無線LANのセキュリティに関するガイドライン」より

BUFFALOの無線LANセキュリティに対する取り組みについて

BUFFALOではお客様がより快適でセキュアな無線LANを簡単にお使いいただける様に製品開発に取り組んでおります。BUFFALOの無線LAN　AirStationシリーズの無線LANセキュリティについてご説明いたします。

① 簡単接続設定システム「AirStation One-Touch Secure System（AOSS）」

「AirStation One-Touch Secure System(AOSS)」は、これまで暗号化キーの設定や入力で煩雑だった無線LANの接続設定を飛躍的に簡単にする新技術です。これを使用することで、ワンタッチでセキュアな無線LANネットワークに接続できます。暗号化方式は、標準的な「WEP」（64/128bitWEP）のほか、最新のセキュリティであるWPAにも採用されている「TKIP」、米国政府の標準暗号化方式として採用されている強固な「AES」に対応しており、「AOSS」がそれぞれの機器のセキュリティ機能レベルを判断して最適な暗号化方式に自動設定します。

② プライバシーセパレータ

無線パソコン間の通信を禁止する機能です。これを使用することで、同一のアクセスポイントに接続している無線パソコンのデータが見えなくなるため、プライバシーの保護が可能です。

③ 無線送信出力制限

無線の送信出力を変更する機能です。この数値を低くすると、無線の届く範囲が短くなるため、不要な電波漏れによる不正アクセスを防止できます。

④ Any接続拒否

ESSID（SSID）を「Any」にすることで誰でも接続できてしまう「Any接続」を禁止する機能です。

⑤ 無線ESSID（SSID）ステルス機能

ビーコンパケットの中にESSID（SSID）の情報を含めずに電波を発信する機能です。WindowsXPなどのビーコン信号を検地する機能を搭載している端末からESSID（SSID）を分からなくすることができます。
AirStationシリーズでは、④「Any接続」を「許可しない」設定にすることで実現できます。

目　次

第 1 章　VPN とは

第 2 章　外出先からアクセスする

第 3 章　ネットワーク同士を接続する

第 4 章　付録

第1章
VPN とは

1.1 VPN とは

1.2 VPN の活用例

1.3 VPN で通信するには

1.4 Wake On LAN 機能を使用するには

1.5 リモートデスクトップ（遠隔操作）を使用するには

1.1 VPN とは

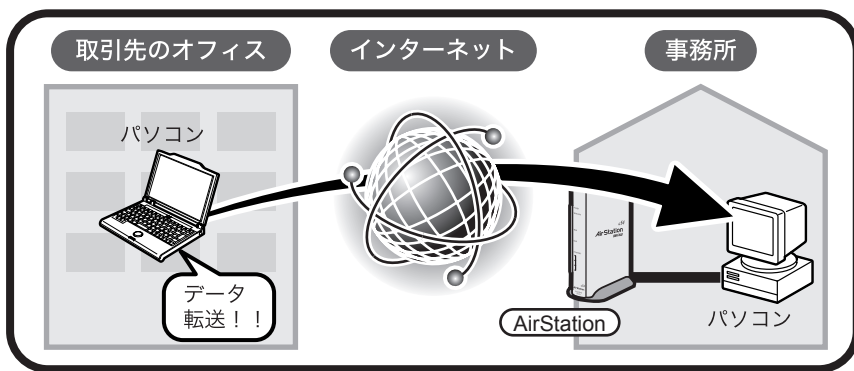
VPN （Virtual Private Network） とは、 インターネットなどの共有回線上で仮想的に専用ネットワークを構築する技術です。

通常、 「インターネット」 という共有回線上での通信は、 専用線で直結したときの通信と同様の安全性は確保できません。 VPN を使用すると、 拠点間で行われる通信を暗号化することで、 インターネット上であっても安全性のある通信をおこなうことができます。 また、 ネットワーク規模の大小に関わらず、 比較的導入が簡単なことや、専用線と比べて、 距離に比例してコストが高くならないといった特長があります。

1.2 VPN の活用例

VPN を活用すると、 次のようなことができるようになります。

■ 活用例 1　外出先から事務所のパソコンへデータを転送する

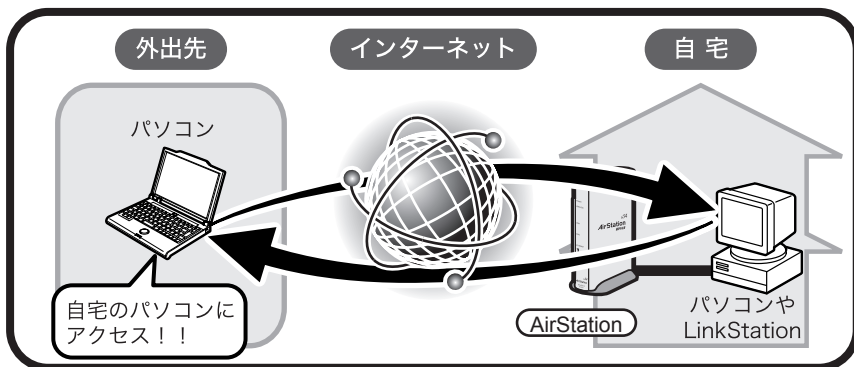
Ａ さんは、小さいながらも自宅に事務所を構え、個人で仕事をしています。今日は取引先の会社で図面の打ち合わせをする予定です。VPN を活用すれば、取引先で打ち合わせた内容を、その場で事務所のパソコンへ転送することができます。

設定方法は、 第 2 章 「外出先からアクセスする」 を参照してください。

■　活用例 2　自宅のパソコンにあるデータに外出先からアクセスする

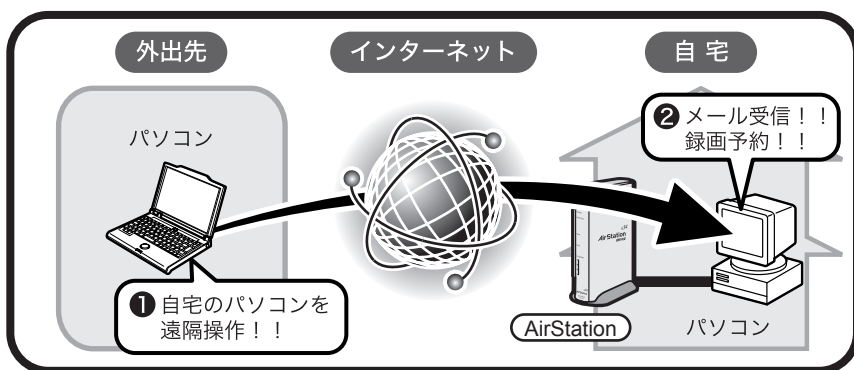
Ｂ さんは、事業部のプロジェクトリーダーです。今日の企画会議のため、昨晩のうちに自宅で資料をまとめたのですが、うっかりデータを忘れてきてしまいました。そんなとき VPN を活用すれば、自宅のパソコンや LinkStation へアクセスし、データを取り出すことができます。

設定方法は、 第 2 章 「外出先からアクセスする」 を参照してください。

1

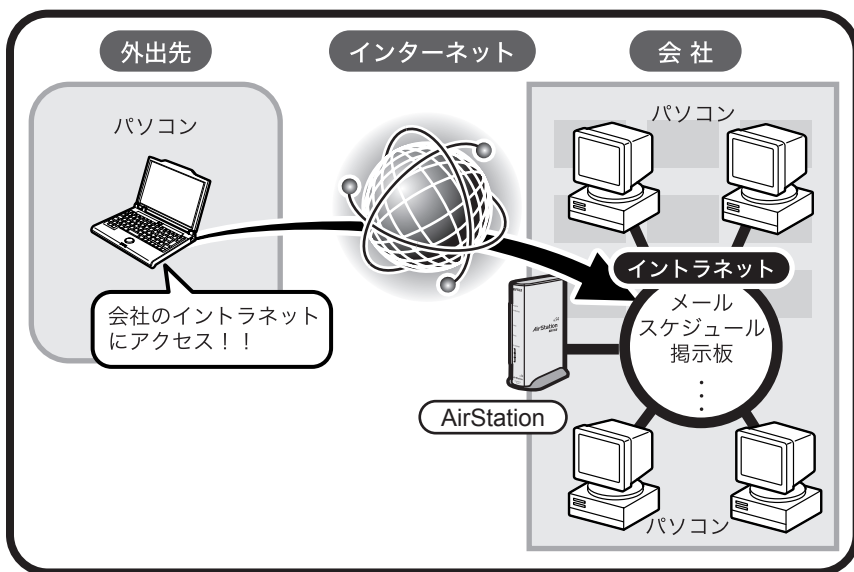
VPNとは

■ 活用例 3　外出先からメールチェックや録画予約をする

友人の多い C さんは、毎日のメールのやりとりが大変です。自宅でしかメールをチェックできないため、睡眠時間を削ってメールをやりとりしています。
大学生の D さんには、現在、夢中になっているドラマがあり、毎回欠かさずパソコンに録画しています。今日はサークル仲間と旅行に来たのですが、ドラマの録画予約を忘れたことに気が付きました。

そんなとき VPN を活用すれば、外出先から自宅のパソコンへアクセスして、空き時間にメールをチェックしたり、録画予約をすることができます。

- アクセス先（自宅）のパソコンに、WindowsXP Professional がインストールされている必要があります。
- アクセス先（自宅）のパソコンに、あらかじめリモートデスクトップの設定をしておく必要があります。(P68)

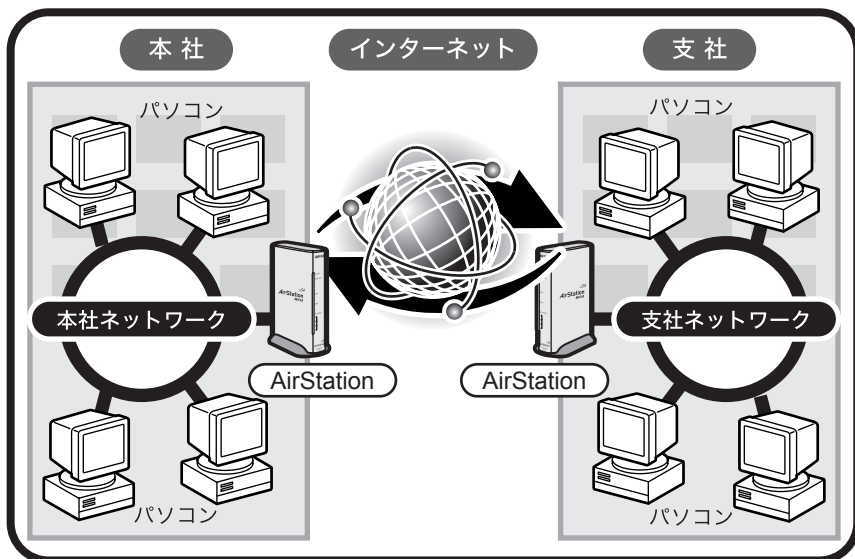
☞ 設定方法は、第 2 章「外出先からアクセスする」を参照してください。

■ 活用例 4　外出先から会社のイントラネットにアクセスする

事業部長の E さんは、現在、長期出張中です。長期間、会社を離れるため、社内の状態がとても気になっています。そんなとき VPN を活用すれば、出張先から会社のイントラネットへアクセスして、情報を共有することができます。

社内にファイアウォールが設置されている場合、ファイアウォールの設定変更が必要になることがあります。ファイアウォールの設定変更については、社内のネットワーク管理者にご相談ください。

設定方法は、 第 2 章 「外出先からアクセスする」 を参照してください。

■ 活用例 5　本社ネットワークと支社のネットワークを接続する

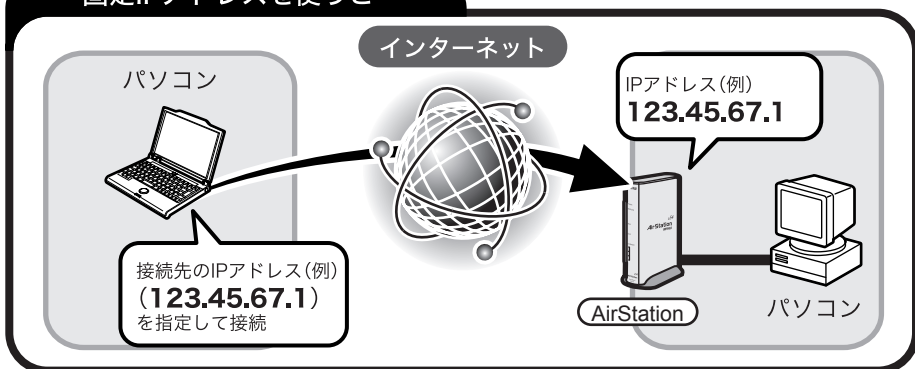
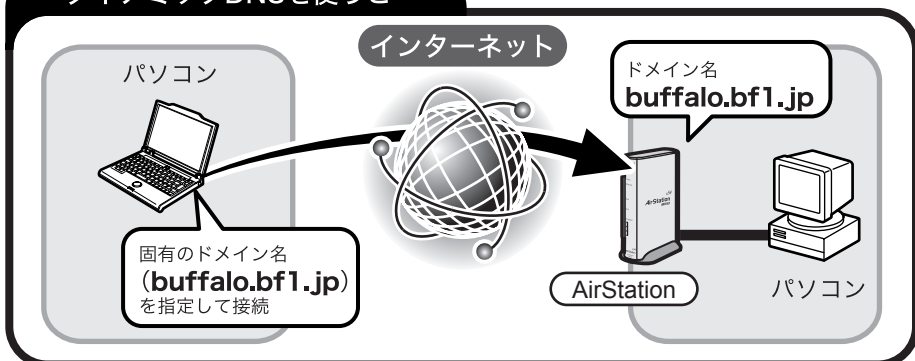
情報システム部長の F さんは、今度新設される名古屋支社の情報システムを担当することになりました。今度、名古屋に転勤になる社員からは、「今までと同じように本社のデータベースへアクセスできるようにしてほしい」と言われていますが、専用線を導入するほどの予算がありません。そんなとき VPN を活用すれば、安価なブロードバンド回線を利用して、本社のネットワークと支社のネットワークを専用線のように接続することができます。

設定方法は、第 3 章「ネットワーク同士を接続する」を参照してください。

メモ　その他の活用例については、弊社ホームページ（http://buffalo.melcoinc.co.jp/products/catalog/network/remoteaccess/）でもご紹介しています。

1.3 VPN で通信するには

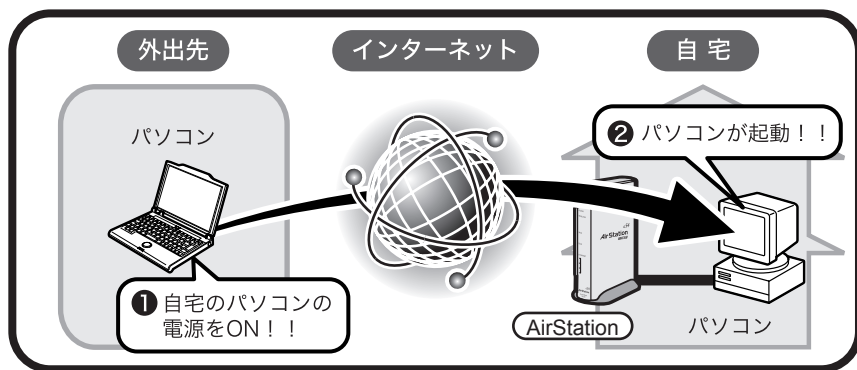
VPN で通信するには、 IP アドレスで通信先を特定するため、 次のどちらかの環境が必要です。

- **「固定 IP アドレス」 （固定グローバル IP アドレス） でインターネットに接続できる環境**
- **「ダイナミック DNS サービス」 を使用して、 ドメイン名から IP アドレスを特定できる環境**

通常、 プロバイダから割り当てられる IP アドレスは、 インターネットに接続するたびに変わります。 この場合、 IP アドレスで通信先を特定することができません。 プロバイダの固定 IP アドレスの割り当てサービスは、 一般に高価なため 「安価に VPN を利用したい」 という場合は、 弊社の 「ダイナミック DNS サービス」 （有料） をお勧めします。 「ダイナミック DNS サービス」 を利用すると、 プロバイダから割り当てられた IP アドレスが変更されても、 あらかじめ登録しておいたドメイン名（xxx.bf1.jp など） を使って通信することができます。

メモ

- 固定グローバル IP アドレスを取得するには、プロバイダの固定 IP アドレスの割り当てサービスを契約する必要があります。
- 弊社のダイナミック DNS サービスは有料サービスですが、購入前に動作やサービス内容を確認していただだけるよう、無料トライアル期間（利用登録後 1ヶ月間）を設けております。無料トライアル期間終了後も引き続きダイナミック DNS サービスを使用したい場合は、有料サービスの申し込みが必要です。有料サービスについてのご案内は、無料トライアル期間終了前に、弊社から E メールにてお知らせします。
- 弊社以外のダイナミック DNS サービス（@ nifty、DION、DynDNS、ZiVE）を利用することもできます。
- DynDNS の MX レコードの更新には、対応しておりません。本製品を使用して DynDNS の IP アドレスを更新すると、登録された MX レコードが消去されますので、ご注意ください。
- DION ダイナミック DNS の独自ドメインサービスには、対応しておりません。

1.4 Wake On LAN 機能を使用するには

本製品の Wake On LAN 機能を使用すると、 外出先から VPN 経由で自宅のパソコンの電源を ON にすることができます。

Wake On LAN 機能を使用するには、 電源を ON にするパソコン (自宅のパソコン) が Wake On LAN 機能に対応している必要があります。 Wake On LAN 機能の対応については、 パソコンのマニュアルを参照してください。

1.5 リモートデスクトップ（遠隔操作）を使用するには

リモートデスクトップ機能を使用すると、外出先から自宅のパソコンを遠隔操作することができます。リモートデスクトップを使用するには、「操作される側」と「操作する側」双方のパソコンに設定が必要になります。設定手順については、第4章の「リモートデスクトップ（遠隔操作）の設定をするには」（P68）を参照してください。

⚠注意
- 操作される側のパソコンには、Windows XP Professional がインストールされている必要があります。Windows XP Home または Windows Me/2000 では、リモートデスクトップは使用できません。
- 操作される側のパソコンに、あらかじめパスワードが設定されている必要があります。パスワードが設定されていないと、リモートデスクトップは使用できません。

メモ　リモートデスクトップについての詳細は、Microsoft のホームページ（http://www.microsoft.com/japan/windowsxp/pro/using/howto/gomobile/remotedesktop/）をご参照ください。

第2章
外出先からアクセスする

2.1 AirStation（親機）を設定しよう

2.2 外出先で使うパソコンを設定しよう

2.3 外出先から接続しよう

2.1 AirStation（親機）を設定しよう

外出先から自宅や会社のネットワークにアクセスする場合 （例 ： P10 ～ P13） は、下記の設定をします。
外出先からアクセスできるようにするため、 AirStation の設定をします。

Step 1 AirStation （親機） の設置

最初に AirStation を設置します。

メモ
・ AirStationをお使いになる前に、ADSL/ケーブルモデムにパソコンを直結してインターネットに接続していた場合は、いったん ADSL/ ケーブルモデムの電源を OFF にした後、30 分程度たってから配線してください。
・ Windows2000 をお使いの場合は、パソコンに Internet Explorer5.5 以降がインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、作業を始める前に［スタート］メニューより［Windows Update］を選択して、Internet Explorer をバージョンアップしてください。

1 AirStation を接続する前に、パソコンと ADSL/ ケーブルモデムの電源を OFF にします。

2 スタンドを取り付けます。

3 AirStation とモデムと AC アダプタを接続します。

AirStation の WAN ポート（一番下のポート）と ADSL/ ケーブルモデムを付属の LAN ケーブルで接続します。次に AC アダプタを接続します。

メモ AirStation とパソコンを有線（ケーブル）で接続する場合は、ここでパソコンと AirStation を別売の LAN ケーブルで接続してください。

4　POWERランプとDIAGランプが点灯し、WANランプが点灯（または点滅）します。

しばらくすると、WIRELESSランプが点灯します。
その後、数秒でDIAGランプが消灯します。

以上で設置は完了です。

次へ
・ 無線を使ってパソコンとAirStationを接続する場合は、「Step2」（P22）へ進んでください。
・ 有線（ケーブル）でパソコンとAirStationを接続する場合は、「Step4」（P26）へ進んでください。（「Step2」や「Step3」の手順は不要です）

Step 2 無線アダプタ（子機）の取り付け

ドライバをインストールして、無線アダプタをパソコンに取り付けます。

- **WLI-CB-G54S や WLI-CB-G54、WLI2-USB2-G54 など AOSS に対応している弊社製無線アダプタをお使いの場合：**

  ⇒ 以下の手順にしたがってインストールしてください。

- **AOSS に対応していない弊社製無線アダプタや他社製無線アダプタ、無線 LAN 内蔵パソコンをお使いの場合：**

  ⇒ 以下の手順は不要です。無線アダプタやパソコンのマニュアルを参照して無線機能を有効にし、AirStation に接続してください（※）。AirStation に接続した後は、「Step4」（P26）へ進んでください。

  ※ AirNavigator CD 内「AirStation 設定ガイド」の「無線機能の設定を変更したい」を参照してください。

メモ　AirStation の出荷時設定

ESSID(SSID) ： AirStation 底面に記載されている LAN MAC アドレス
暗号化キー ： 設定なし

※ AOSS で設定された AirStation の ESSID(SSID) と暗号化キーを確認したいときは、「AOSS で設定された ESSID（SSID）と暗号化キーを確認するには」（P72）を参照してください。

まだ取り付けないでください
無線アダプタは、以下の手順６の取り付け指示があるまで、取り付けないでください。先に取り付けると、「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されます。その場合は、［キャンセル］をクリックして、無線アダプタを取り外してください。

1 パソコンを起動します。

2 添付の CD-ROM（AirNavigator CD）をパソコンにセットします。
しばらくすると、AirNavigator が起動します。

3

［バッファロー無線アダプタの設定］を選択します。

［実行］をクリックします。

4 インストーラが起動しますので、[次へ] をクリックします。

5 使用許諾契約を読み、同意できる場合は [同意する] を選択して、[次へ] をクリックします。

6

「製品を取り付けてください」と表示されたら、無線アダプタ（子機）をパソコンに取り付けます。

7 「インストールが完了しました」と表示されたら、[完了] をクリックします。

8 自動的に Client Manager2（クライアントマネージャ 2）のインストール画面が表示されます。

9

[OK] をクリックします。

10 使用許諾契約を読み、同意できる場合は [同意] をクリックします。

11 [次へ] をクリックします。

12 「Client Manager2 のインストールが完了しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。

以上で無線アダプタ （子機） の取り付けは完了です。

Step 3 無線アダプタ （子機） の設定

AOSS 機能を使って、 無線アダプタ （子機） を AirStation （親機） に無線で接続します。

AirStation（親機）の近くで設定してください
セキュリティを確保するため、無線アダプタ（子機）設定時は、電波が一時的に弱くなります。近くに障害物などがあると、AirStation（親機）に接続できない場合がありますので、設定はAirStation（親機）の近くでおこなってください。

1

セキュリティ設定
このパソコンの接続先を設定します。
AOSSに対応したアクセスポイントに接続する場合は、「AOSSで接続する」を選択してください。
AOSSで接続する
検索して接続する
今は接続しない

1 クリック

Client Manager2（クライアントマネージャ 2）のインストールが完了すると、左の画面が表示されます。

「AOSS で接続する」をクリックします。

上記の画面が表示されていないときは、デスクトップ画面右下のタスクトレイにある アイコンを右クリックして、「プロファイルを表示する」を選択し、「AOSS」ボタンをクリックします。

2

「AirStation のセキュア接続スイッチを押してください」と表示されたら、AOSS ランプが 2 回点滅するまで（約 3 秒間）、AOSS ボタンを押します。

※ AOSS ボタンは、AirStation の電源を入れた状態で押してください。

3

自動的に AirStation が検索されて、設定が行われます。

4

設定が完了すると、「AirStation との接続を完了しました」と表示されます。

メモ

- 「AOSS　モードのアクセスポイントが見つかりませんでした」と表示されたときは、AirStation と無線アダプタを近づけてから（50cm 以内）、[AOSS] ボタンをクリックしてください。
- エラーメッセージが表示されたときは、AirNavigator CD 内「AirStation 設定ガイド」の「Client Manager2（クライアントマネージャ 2）の使いかた」を参照してください。

5

「ステータス」に接続中と表示されることを確認します。

メモ AirStation（親機）に正しく接続されなかった場合、AirStation の AOSS ランプが 2 回点滅から点滅に変わります。その場合は、再度手順 1 からおこなってください。

以上で無線アダプタ（子機）の設定は完了です。

Step 4 インターネットへの接続

AirStation を経由してインターネットへ接続できるように設定します。

1 添付の CD-ROM（AirNavigator CD）をパソコンにセットします。
しばらくすると、AirNavigator が起動します。

2

［エアステーション設定］を選択します。

［実行］をクリックします。

3 お使いの無線アダプタ（ネットワークアダプタ）を選択して、［次へ］をクリックします。
［次へ］をクリックすると、ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されます。

4

1 入力 ユーザー名に「root」（小文字）を入力します。パスワードは空欄のままにします。

2 クリック ［OK］をクリックします。

5

設定画面が表示されたら、お使いの回線を選択します。

6 以降は、画面の指示に従い設定をおこないます。

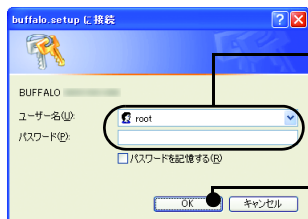
以上でインターネットへの接続は完了です。

Step 5 リモートアクセスの設定

インターネットへの接続が完了したら、 外出先から自宅やオフィスのネットワークにアクセスできるように AirStation の設定をします。

1 AirStation の設定画面を表示します。

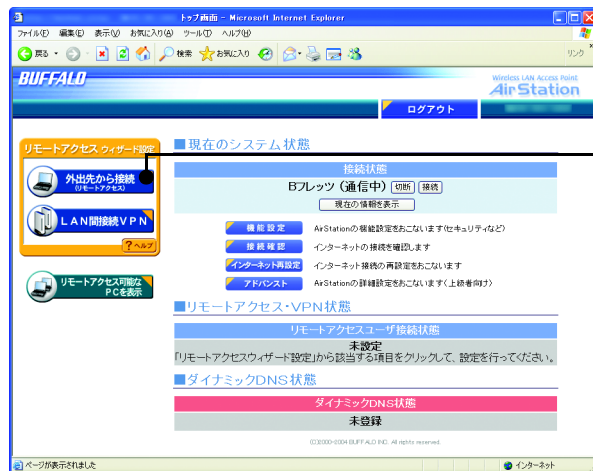
WEB ブラウザのアドレス欄に「buffalo.setup」と入力し、<Enter> キーを押します。

2

1 入力

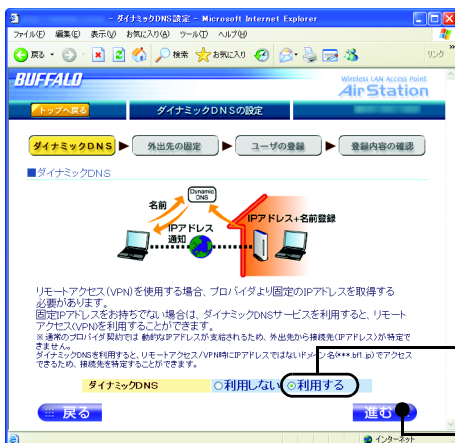
ユーザー名に「root」を入力します。パスワードを空欄にします。AirStation にパスワードを設定している場合は、設定したパスワードを入力してください。

2 クリック

[OK] をクリックします。

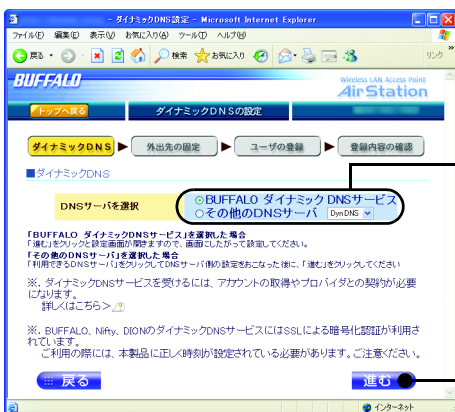
3

画面左の[外出先から接続]をクリックします。

2 外出先からアクセスする

4

ダイナミック DNS で［利用する］を選択します。

［進む］をクリックします。

メモ　固定 IP アドレスをご利用の場合など、ダイナミック DNS を使用しない場合は、ダイナミック DNS に［利用しない］を選択して、［進む］をクリックし、手順１６へ進んでください。

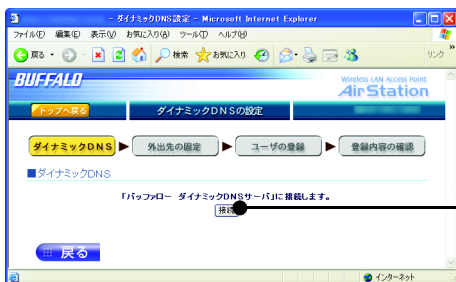
5

ご使用になるダイナミック DNS サーバを選択します。

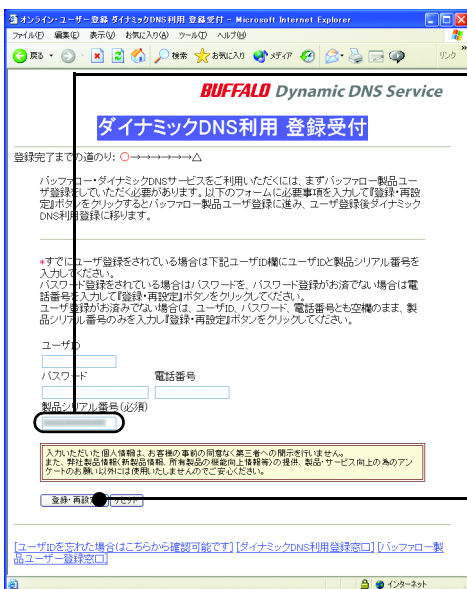
［進む］をクリックします。

メモ
- はじめてダイナミック DNS サービスをご利用になる場合は、設定方法が簡単な「BUFFALO ダイナミック DNS サービス」（有料）の利用をおすすめします。
- 弊社以外のダイナミック DNS サービスをご利用になる場合は、「その他の DNS サーバ」欄をチェックし、プルダウンメニューから選択してください。
- プルダウンメニューにないダイナミック DNS サービスは利用できません。

以降の手順（6 ～ 15）は、BUFFALO ダイナミック DNS サービスを利用する場合の手順です。

BUFFALO 以外のダイナミック DNS サービスを利用する場合は、「ホスト名」、「ドメイン名」、「ユーザ名」、「パスワード」、「IP アドレス更新周期（有効期間）」を入力して［進む］をクリックし、手順 16 へ進んでください。

6

［接続］をクリックします。

7

1 入力

製造番号（本製品底面のシールに記載されている14 桁の数字）を入力します。

すでにBUFFALOダイナミックDNSサービスをご利用の場合は、ユーザ ID とパスワードと AirStation の製造番号を入力します。

2 クリック

［登録・再設定］をクリックします。

8 「個人・法人」（選択）、「住所」、「氏名・法人名」、「電話番号」、「パスワード」、「電子メールアドレス」を入力し、製品シリアル番号欄の下にある「ダイナミック DNS を利用する」をクリックしてチェックマークをつけ、［登録］をクリックします。

9 登録内容を確認して、［登録］をクリックします。

10 ［ダイナミック DNS 利用登録開始］をクリックします。

11 会員規約を確認し、同意できる場合は［同意して登録する］をクリックします。

12

希望する URL のサブドメイン名（例：buffaloinc.bf1.jp）を半角英数字で入力します。

［送信］をクリックします。

13

登録内容を確認します。

［ルータに登録］をクリックします。

14

ユーザー名に「root」を入力します。パスワードを空欄にします。AirStation にパスワードを設定している場合は、設定したパスワードを入力してください。

［OK］をクリックします。

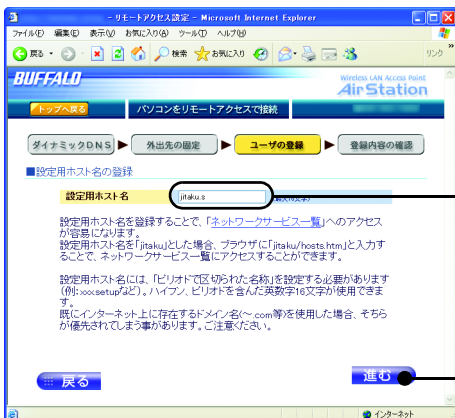
15 「設定を保存しています...　完了」と表示されたら、［Next］をクリックします。

16

1 選択　［固定しない］を選択します。

2 クリック　［進む］をクリックします。

メモ　固定 IP アドレスを契約している場合など、特定の IP アドレスから AirStation に接続する場合は、［固定する］を選択して［進む］をクリックします。次の画面が表示されたら、「制限しない外出先の IP アドレス」を入力して、［アドレスを追加］をクリックし、［進む］をクリックしてください。

17

1 入力　外出先から接続する際に使用する設定用ホスト名を入力します。

2 クリック　［進む］をクリックします。

メモ
- 設定用ホスト名とは、外出先から自宅にアクセスする際に使用するアドレスです。例えば、設定用ホスト名を「jitaku.s」と設定すれば、外出先から「http://jitaku.s/hosts.htm」というアドレスで AirStation のネットワークサービス一覧画面（アクセスしたいパソコンやLinkStationを選択する画面）を表示できます。(P42)
- 設定用ホスト名は、必ずピリオド（.）で区切られた名称（例：home.net など）を設定してください。
- 設定用ホスト名に、すでにインターネット上に存在するアドレス（例：86886.jp など）を設定すると、外出先から自宅にアクセスできないことがあります。

18

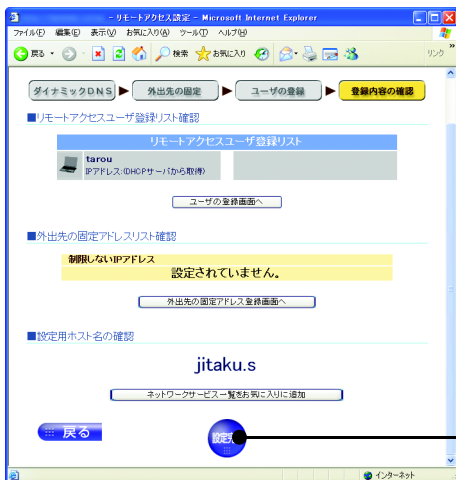
1 入力 外出先から接続する際に使用するユーザ ID と接続パスワードを設定します。

2 クリック ［ユーザの追加］をクリックします。

19

1 確認 「リモートアクセスユーザ登録リスト」に登録したユーザが表示されることを確認します。

2 クリック ［進む］をクリックします。「設定を保存しています... 完了」と表示され、自動的に次の画面が表示されます。

20

1 クリック ［設定完了］をクリックします。

2.2 外出先で使うパソコンを設定しよう

外出先から自宅やオフィスのネットワークにアクセスできるようにパソコンの設定をします。

設定手順は Windows のバージョンによって異なります。

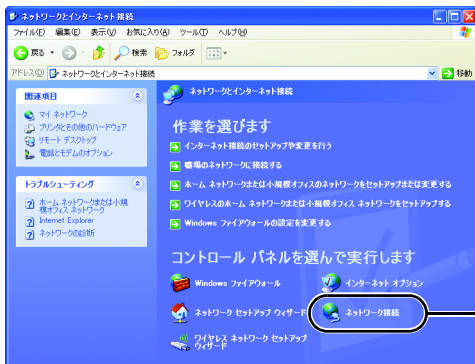
▶参照 WindowsXP の場合 P33
Windows2000 の場合 P35
WindowsMe の場合 P37

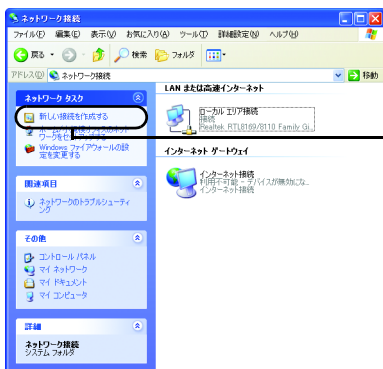
■ WindowsXP の場合

1 ［スタート］－［コントロールパネル］を選択します。

2

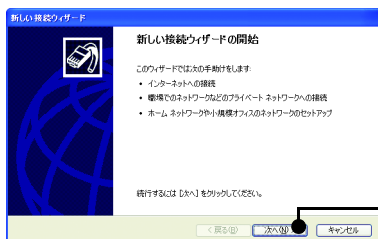
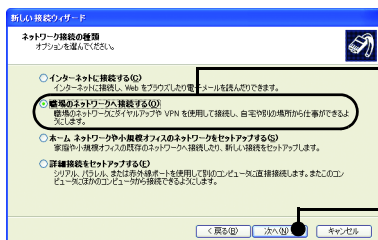
［ネットワークとインターネット接続］をクリックします。

3

［ネットワーク接続］をクリックします。

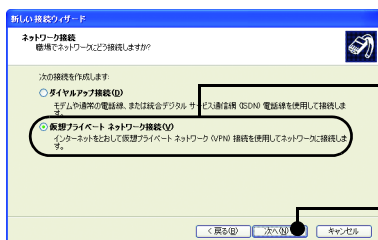
4

画面左の［新しい接続を作成する］をクリックします。

5

［次へ］をクリックします。

6

［職場のネットワークへ接続する］を選択します。

［次へ］をクリックします。

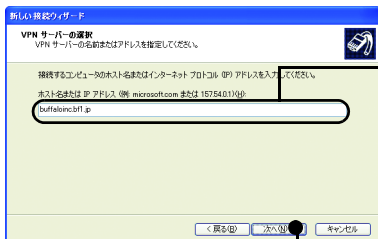
7

［仮想プライベートネットワーク接続］を選択します。

［次へ］をクリックします。

8

1 入力 「会社名」に接続名称（例：自宅のルータ）を入力します。

2 クリック ［次へ］をクリックします。

9

1 入力 バッファロー DNS サービス（P30）で取得した登録 URL ※または、AirStation の WAN 側 IP アドレスを入力します。

※ 設定用ホスト名（P31）とは異なりますので、ご注意ください。

2 クリック ［次へ］をクリックします。

10 ［完了］をクリックします。

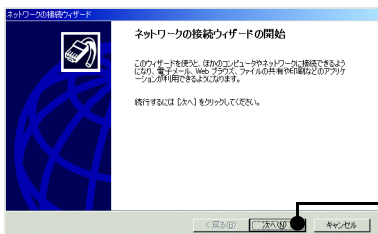
以上でパソコンの設定は完了です。

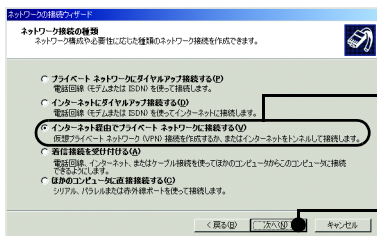
■ Windows2000 の場合

1 ［スタート］－［設定］－［コントロールパネル］を選択します。

2 ［ネットワークとダイヤルアップ接続］をダブルクリックします。

3 ［新しい接続の作成］をダブルクリックします。

4

1 クリック ［次へ］をクリックします。

5

［インターネット経由でプライベートネットワークに接続する］を選択します。

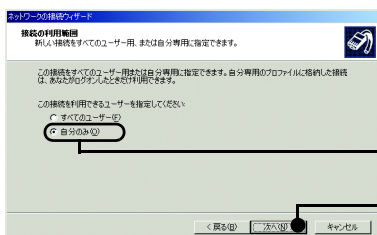
［次へ］をクリックします。

6

バッファロー DNS サービス（P30）で取得した登録 URL ※または、AirStation の WAN 側 IP アドレスを入力します。

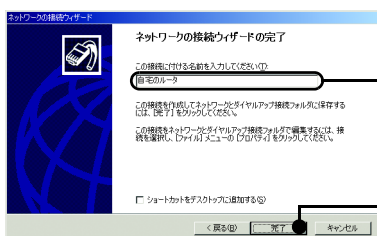
※ 設定用ホスト名（P31）とは異なりますので、ご注意ください。

［次へ］をクリックします。

7

［自分のみ］を選択します。

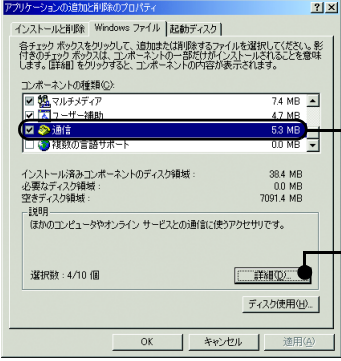
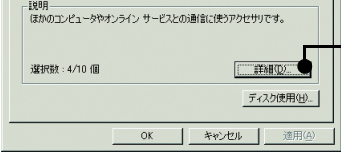
［次へ］をクリックします。

メモ ここで設定する内容を他のユーザーも使用する場合は、［すべてのユーザー］を選択してください。

8

接続名称（例：自宅のルータ）を入力します。

［完了］をクリックします。

以上でパソコンの設定は完了です。

■ WindowsMe の場合

Windows の CD-ROM から 「仮想プライベートネットワーク」 をインストールする必要があります。

あらかじめ Windows の CD-ROM を用意してから、 以下の手順で設定してください。

メモ　パソコンによっては、Windows の CD-ROM の代わりにリカバリ CD-ROM が添付されている場合があります。その場合は、CD-ROM は必要ありません。（以下の手順２以降を参照して設定してください）

1　Windows の CD-ROM をパソコンにセットします。

2　［スタート］ ― ［設定］ ― ［コントロールパネル］ を選択します。

3　［アプリケーションの追加と削除］ をダブルクリックします。

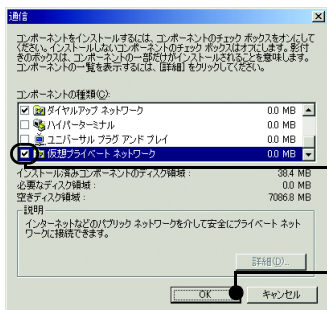
4

［Windows ファイル］をクリックします。

5

［通信］ を選択します。

［詳細］ をクリックします。

6

［仮想プライベートネットワーク］のチェックボックスをクリックしてチェックマークをつけます。

［OK］をクリックします。

7 ［OK］をクリックします。

8 インストールが完了し、「今すぐ再起動しますか？」と表示されたら、［はい］をクリックします。

メモ　上記のメッセージが表示されないときは、手動でパソコンを再起動してください。

9 ［スタート］－［コントロールパネル］内の「ダイヤルアップネットワーク」をダブルクリックします。

10 ［新しい接続］をダブルクリックします。

11

［次へ］をクリックします。

12

接続名称（例：自宅のルータ）を入力します。

モデムの選択に［Microsoft VPN アダプタ］を選択します。

［次へ］をクリックします。

13

バッファローDNSサービス(P30)で取得した登録URL※または、AirStationのWAN側IPアドレスを入力します。

※ 設定用ホスト名（P31）とは異なりますので、ご注意ください。

［次へ］をクリックします。

14

［完了］をクリックします。

以上でパソコンの設定は完了です。

2.3 外出先から接続しよう

AirStation やパソコンの設定が完了したら、 外出先から自宅やオフィスのネットワークにアクセスします。

Step 1 外出先からの接続

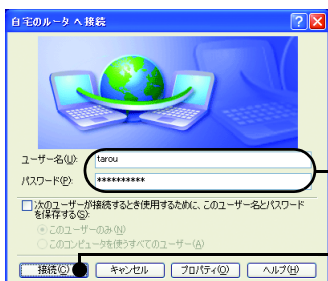
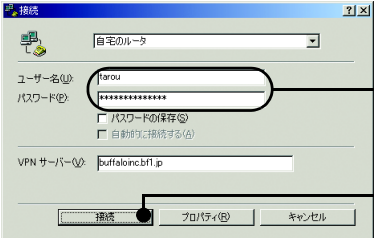
外出先から自宅や会社のネットワークに接続します。 接続方法は Windows のバージョンによって異なります。

メモ　あらかじめインターネットに接続できるか確認してください。インターネットに接続できない場合は、自宅やオフィスのネットワークにアクセスできません。

■ WindowsXP/2000 の場合

1 「外出先で使うパソコンを設定しよう 」(P33) で設定した接続先をダブルクリックします。

- WindowsXP の場合は、[スタート] ー [コントロールパネル] ー [ネットワークとインターネット接続] ー [ネットワーク接続] の順にクリックし、接続先をダブルクリックします。
- Windows2000 の場合は、[スタート] ー [コントロールパネル] 内の [ネットワークとダイヤルアップ接続] をダブルクリックし、接続先をダブルクリックします。

2

ユーザー名とパスワードに「リモートアクセスの設定」で登録したユーザー名とパスワード（P32）を入力します。

[接続] をクリックします。

以上で外出先からの接続は完了です。

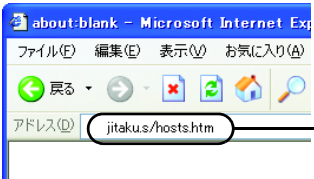
■ WindowsMe の場合

1 ［スタート］－［コントロールパネル］内の［ダイヤルアップネットワーク］をダブルクリックし、「外出先で使うパソコンを設定しよう 」(P37) で設定した接続先をダブルクリックします。

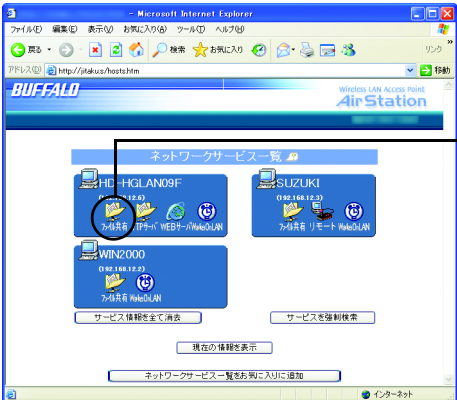
2

ユーザー名とパスワードに「リモートアクセスの設定」で登録したユーザー名とパスワード (P32) を入力します。

［接続］をクリックします。

以上で外出先からの接続は完了です。

Step 2a 外出先から自宅や会社のパソコン/ LinkStation にアクセスする

■ アクセス手順

ここでは例として、 外出先から自宅の LinkStation へアクセスする方法を説明します。

1 WEB ブラウザを起動します。

2

アドレス欄に「リモートアクセスの設定」で登録した設定用ホスト名（P31）を「設定用ホスト名 /hosts.htm」の形式（例：jitaku.s/hosts.htm）で入力して、<Enter> キーを押します。

3

ネットワークサービス一覧画面が表示されたら、アクセスしたい機器のファイル共有アイコン（ファイル共有）をクリックします。

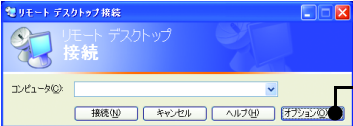
メモ
- アクセスしたい機器が表示されない場合は、[サービスを強制検索] ボタンをクリックして、しばらくしてから [Back] をクリックしてください。
- AirStation に接続しているパソコンの台数等により、検索に時間がかかることがあります。
（強制検索中は、ボタンに進捗状況が「%」で表示され、[現在の情報を表示] ボタンをクリックすると、進捗状況が更新されます。）
- Internet Explorer をお使いの場合のみ、[ネットワークサービス一覧をお気に入りに追加] をクリックすると、一覧画面を「お気に入り」に追加できます。

4

LinkStation の共有フォルダが表示されアクセスが可能になります。

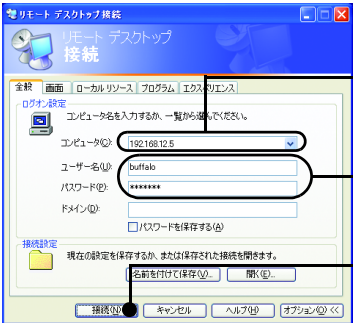
■ ネットワークサービス一覧画面でできること

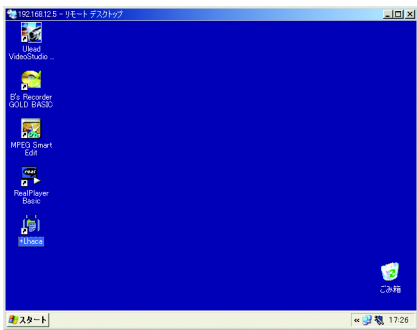
ネットワークサービス一覧画面では、 以下の機能を使用することができます。

アイコン	名称	詳細
ファイル共有	ファイル共有	クリックすると、パソコンや LinkStation の共有フォルダにアクセスできます。（＊１）
FTPサーバ	FTP サーバ	クリックすると、ブラウザから FTP サーバにアクセスできます。
WEBサーバ	WWW サーバ	クリックすると、WWW サーバ（＊２）にアクセスできます。
リモート	リモートデスクトップ	このアイコンが表示されているパソコンは、リモートデスクトップ機能を使用することができます。（＊３）
WakeOnLAN	Wake on LAN	クリックすると、Wake on LAN パケットを送信できます。これにより、Wake on LAN に対応したパソコンが接続されている場合は、電源を ON にすることができます。（＊４）

＊１　Internet Explorer 以外のブラウザをお使いの場合は、アイコンをクリックしても共有フォルダが表示されないことがあります。その場合は、［スタート］－［ファイル名を指定して実行］で、「¥¥< パソコンの IP アドレス >」（例：¥¥192.168.12.6）と入力して［OK］をクリックしてください。

＊２　LinkStation が接続されている場合は、アイコンをクリックすることで LinkStation の設定画面を表示することができます。

＊３　リモートデスクトップアイコンは、クリックすることはできません。リモートデスクトップ機能を使用する場合は、「外出先から自宅や会社のパソコンを遠隔操作する」（P44）の手順を参照してください。

＊４　パソコンが Wake on LAN 機能に対応していても、パソコンの BIOS 設定で Wake on LAN 機能が無効になっている場合は、電源を ON にすることはできません。

Step 2b 外出先から自宅や会社のパソコンを遠隔操作する

WindowsXP Professional をお使いの場合、 外出先から自宅や会社のパソコンを遠隔操作することができます。 これにより、 外出先からメールをチェックしたり、 録画予約を行うことができます。
第 4 章の 「リモートデスクトップ （遠隔操作） の設定をするには」 （P68） をおこなった後、 以下の手順で自宅のパソコンを遠隔操作します。

1 ［スタート］ ─ ［（すべての）プログラム］ ─ ［アクセサリ］ ─ ［通信］ ─ ［リモートデスクトップ接続］ を選択します。

2

［オプション］ をクリックします。

3

1 操作したいパソコンのIPアドレスを入力します。

2 そのパソコンに登録されているユーザー名とパスワードを入力します。

3 ［接続］ をクリックします。

メモ 操作したいパソコンの IP アドレスが分からない場合は、「外出先から自宅や会社のパソコン / LinkStation にアクセスする」（P42）の手順でネットワークサービス一覧の画面から IP アドレスを確認できます。

4

接続が完了したら、接続先パソコンのデスクトップが表示され、メールチェックや録画予約が可能になります。

メモ メールチェックや録画予約の方法については、お使いのソフトのマニュアルを参照してください。

Step 2c 外出先から会社のイントラネットへアクセスする

外出先から会社のイントラネットへアクセスするには、 以下の手順にしたがってください。

1 WEB ブラウザを起動します。

2 グループウェア等のイントラネットホームページのアドレスを入力して <Enter> キーを押します。

3 ホームページが表示されます。

第3章
ネットワーク同士を接続する

3.1 本社側の設定をしよう

3.2 支社側の設定をしよう

3.3 本社ー支社間で通信しよう

3.1 本社側の設定をしよう

本社ー支社間など、拠点間で通信する場合（例：P14）は、下記の設定をします。最初に本社側の AirStation の設定をします。

Step 1 AirStation の設置

最初に AirStation を設置します。

メモ
・ AirStation をお使いになる前に、ADSL/ ケーブルモデムにパソコンを直結してインターネットに接続していた場合は、いったん ADSL/ ケーブルモデムの電源を OFF にした後、30 分程度たってから配線してください。
・ Windows2000 をお使いの場合は、パソコンに Internet Explorer5.5 以降がインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、作業を始める前に［スタート］メニューより［Windows Update］を選択して、Internet Explorer をバージョンアップしてください。

1 AirStation を接続する前に、パソコンと ADSL/ ケーブルモデムの電源を OFF にします。

2 スタンドを取り付けます。

3 AirStation とモデムと AC アダプタを接続します。

AirStation の WAN ポート（一番下のポート）と ADSL/ ケーブルモデムを付属の LAN ケーブルで接続します。次に AC アダプタを接続します。

メモ AirStation とパソコンを有線（ケーブル）で接続する場合は、ここでパソコンと AirStation を別売の LAN ケーブルで接続してください。

4 POWERランプとDIAGランプが点灯し、WANランプが点灯（または点滅）します。

しばらくすると、WIRELESSランプが点灯します。
その後、数秒でDIAGランプが消灯します。

以上で設置は完了です。

次へ
- 無線を使ってパソコンとAirStationを接続する場合は、「Step2」(P50)へ進んでください。
- 有線（ケーブル）でパソコンとAirStationを接続する場合は、「Step4」(P54)へ進んでください。 （「Step2」や「Step3」の手順は不要です）

Step 2 無線アダプタ（子機）の取り付け

ドライバをインストールして、無線アダプタをパソコンに取り付けます。

- **WLI-CB-G54S や WLI-CB-G54、WLI2-USB2-G54 など AOSS に対応している弊社製無線アダプタをお使いの場合：**

  ⇒ 以下の手順にしたがってインストールしてください。

- **AOSS に対応していない弊社製無線アダプタや他社製無線アダプタ、無線 LAN 内蔵パソコンをお使いの場合：**

  ⇒ 以下の手順は不要です。無線アダプタやパソコンのマニュアルを参照して無線機能を有効にし、AirStation に接続してください（※）。AirStation に接続した後は、「Step4」（P54）へ進んでください。

  ※ AirNavigator CD 内「AirStation 設定ガイド」の「無線機能の設定を変更したい」を参照してください。

メモ　AirStation の出荷時設定

ESSID(SSID) ：AirStation 底面に記載されている LAN MAC アドレス
暗号化キー　：設定なし

※ AOSS で設定された AirStation の ESSID(SSID) と暗号化キーを確認したいときは、「AOSS で設定された ESSID（SSID）と暗号化キーを確認するには」（P72）を参照してください。

まだ取り付けないでください
無線アダプタは、以下の手順６の取り付け指示があるまで、取り付けないでください。先に取り付けると、「新しいハードウェアの検出ウィザード」が表示されます。その場合は、［キャンセル］をクリックして、無線アダプタを取り外してください。

1 パソコンを起動します。

2 添付の CD-ROM（AirNavigator CD）をパソコンにセットします。
しばらくすると、AirNavigator が起動します。

3

［バッファロー無線アダプタの設定］を選択します。

［実行］をクリックします。

4　インストーラが起動しますので、[次へ] をクリックします。

5　使用許諾契約を読み、同意できる場合は [同意する] を選択して、[次へ] をクリックします。

6

「製品を取り付けてください」と表示されたら、無線アダプタ（子機）をパソコンに取り付けます。

7　「インストールが完了しました」と表示されたら、[完了] をクリックします。

8　自動的に Client Manager2（クライアントマネージャ 2）のインストール画面が表示されます。

9

[OK] をクリックします。

10　使用許諾契約を読み、同意できる場合は [同意] をクリックします。

11　[次へ] をクリックします。

12　「Client Manager2 のインストールが完了しました」と表示されたら、[OK] をクリックします。

以上で無線アダプタ　（子機）　の取り付けは完了です。

Step 3 無線アダプタ（子機）の設定

AOSS 機能を使って、無線アダプタ（子機）を AirStation（親機）に無線で接続します。

AirStation（親機）の近くで設定してください
セキュリティを確保するため、無線アダプタ（子機）設定時は、電波が一時的に弱くなります。近くに障害物などがあると、AirStation（親機）に接続できない場合がありますので、設定は AirStation（親機）の近くでおこなってください。

1

セキュリティ設定
このパソコンの接続先を設定します。
AOSSに対応したアクセスポイントに接続する場合は、「AOSSで接続する」を選択してください。
AOSSで接続する
検索して接続する
今は接続しない
1 クリック

Client Manager2（クライアントマネージャ 2）のインストールが完了すると、左の画面が表示されます。

「AOSS で接続する」をクリックします。

上記の画面が表示されていないときは、デスクトップ画面右下のタスクトレイにある アイコンを右クリックして、「プロファイルを表示する」を選択し、「AOSS」ボタンをクリックします。

2 「AirStation のセキュア接続スイッチを押してください」と表示されたら、AOSS ランプが 2 回点滅するまで（約 3 秒間）、AOSS ボタンを押します。

※ AOSS ボタンは、AirStation の電源を入れた状態で押してください。

3

自動的に AirStation が検索されて、設定が行われます。

4

設定が完了すると、「AirStation との接続を完了しました」と表示されます。

メモ

- 「AOSS モードのアクセスポイントが見つかりませんでした」と表示されたときは、AirStation と無線アダプタを近づけてから（50cm 以内）、[AOSS] ボタンをクリックしてください。
- エラーメッセージが表示されたときは、AirNavigator CD 内「AirStation 設定ガイド」の「Client Manager2（クライアントマネージャ 2）の使いかた」を参照してください。

5

「ステータス」に接続中と表示されることを確認します。

メモ AirStation（親機）に正しく接続されなかった場合、AirStation の AOSS ランプが 2 回点滅から点滅に変わります。その場合は、再度手順 1 からおこなってください。

以上で無線アダプタ （子機） の設定は完了です。

Step 4 インターネットへの接続

AirStation を経由してインターネットへ接続できるように設定します。

1 添付の CD-ROM（AirNavigator CD）をパソコンにセットします。
しばらくすると、AirNavigator が起動します。

2

［エアステーション設定］を選択します。

［実行］をクリックします。

3 お使いの無線アダプタ（ネットワークアダプタ）を選択して、［次へ］をクリックします。
［次へ］をクリックすると、ユーザー名とパスワードの入力画面が表示されます。

4

ユーザー名に「root」（小文字）を入力します。パスワードは空欄のままにします。
［OK］をクリックします。

5

設定画面が表示されたら、お使いの回線を選択します。

6 以降は、画面の指示に従い設定をおこないます。

以上でインターネットへの接続は完了です。

Step 5 AirStation の設定

1 AirStation の設定画面を表示します。

WEB ブラウザのアドレス欄に「buffalo.setup」と入力し、<Enter> キーを押します。

2

ユーザー名に「root」を入力します。パスワードを空欄にします。AirStation にパスワードを設定している場合は、設定したパスワードを入力してください。

[OK] をクリックします。

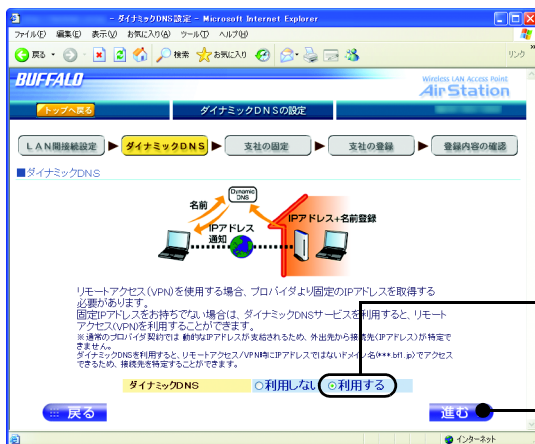
3

画面左の [LAN 間接続 VPN] をクリックします。

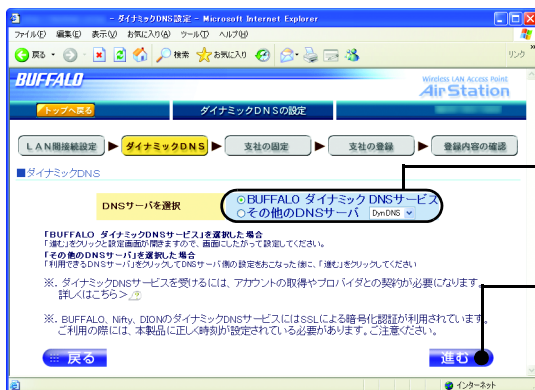
4

[本社側（サーバ）の設定をする] を選択します。

[進む] をクリックします。

5

ダイナミック DNS に［利用する］を選択します。

［進む］をクリックします。

メモ 固定 IP アドレスをご利用の場合など、ダイナミック DNS を使用しない場合は、ダイナミック DNS に［利用しない］を選択して、［進む］をクリックし、手順１７へ進んでください。

6

ご使用になるダイナミック DNS サーバを選択します。

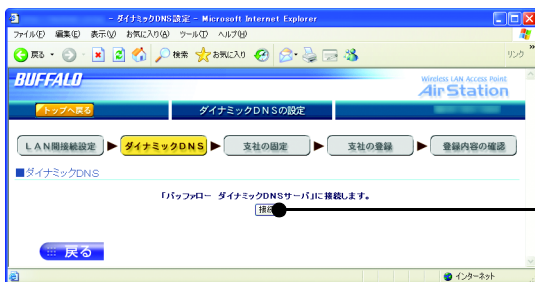
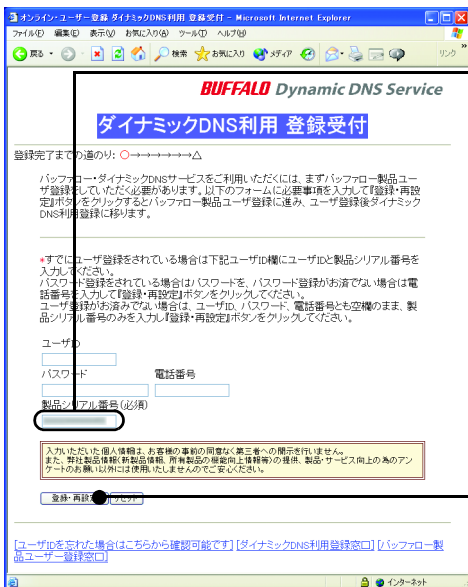
［進む］をクリックします。

メモ

- はじめてダイナミック DNS サービスをご利用になる場合は、設定方法が簡単な「BUFFALO ダイナミック DNS サービス」（有料）の利用をおすすめします。
- 弊社以外のダイナミック DNS サービスをご利用になる場合は、「その他の DNS サーバ」欄をチェックし、プルダウンメニューから選択してください。
- プルダウンメニューにないダイナミック DNS サービスは利用できません。

以降の手順は、 BUFFALO ダイナミック DNS サービスを利用する場合の手順です。

BUFFALO 以外のダイナミック DNS サービスを利用する場合は、 「ホスト名」、 「ドメイン名」、 「ユーザ名」、 「パスワード」、 「IP アドレス更新周期（有効期間）」を入力して ［進む］ をクリックし、 手順 １７ へ進んでください。

7

［接続］をクリックします。

8

製造番号（本製品底面のシールに記載されている14 桁の数字）を入力します。

すでに BUFFALO ダイナミック DNS サービスをご利用の場合は、ユーザ ID とパスワードと AirStation の製造番号を入力します。

［登録・再設定］をクリックします。

9 「個人・法人」（選択）、「住所」、「氏名・法人名」、「電話番号」、「パスワード」、「電子メールアドレス」を入力し、製品シリアル番号欄の下にある「ダイナミック DNS を利用する」をクリックしてチェックマークをつけ、［登録］をクリックします。

10 登録内容を確認して、［登録］をクリックします。

11 ［ダイナミック DNS 利用登録開始］をクリックします。

12 会員規約を確認し、同意できる場合は［同意して登録する］をクリックします。

13

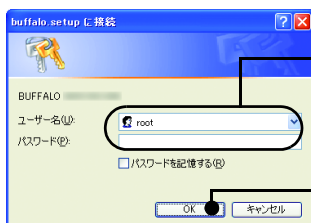
希望する URL のサブドメイン名（例:buffaloinc.bf1.jp）を半角英数字で入力します。

［送信］をクリックします。

14

登録内容を確認します。

［ルータに登録］をクリックします。

15

ユーザー名に「root」を入力します。パスワードを空欄にします。AirStationにパスワードを設定している場合は、設定したパスワードを入力してください。

［OK］をクリックします。

16 「設定を保存しています... 完了」と表示されたら、［Next］をクリックします。

17

［固定する］を選択します。

［進む］をクリックします。

メモ　どの IP アドレスのネットワークからでも本社にアクセスできるようにする場合は、IP アドレスを、［固定しない］を選択して［進む］をクリックし、手順２０へ進んでください。

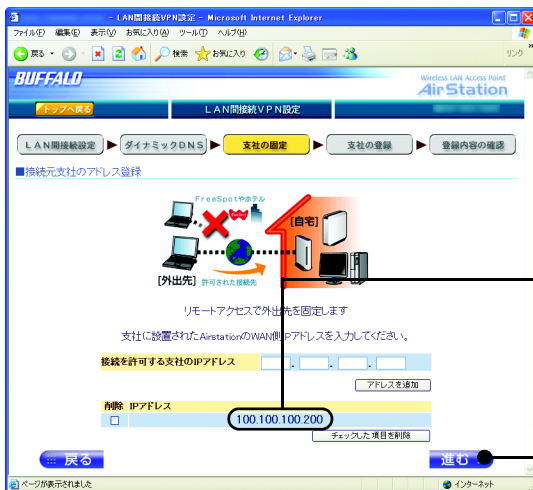
18

支社に設置されている AirStation の WAN 側 IP アドレスを入力します。

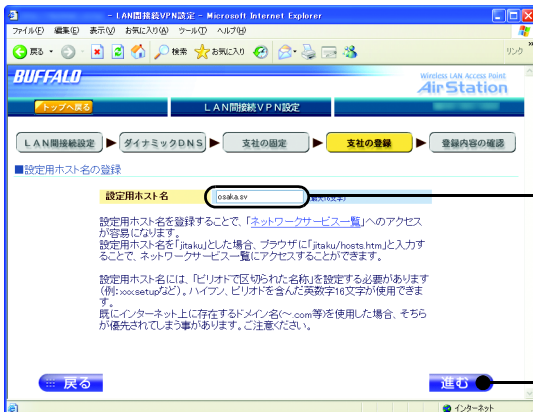
［アドレスを追加］をクリックします。

3

ネットワーク同士を接続する

19

入力したIPアドレスが追加されたことを確認します。

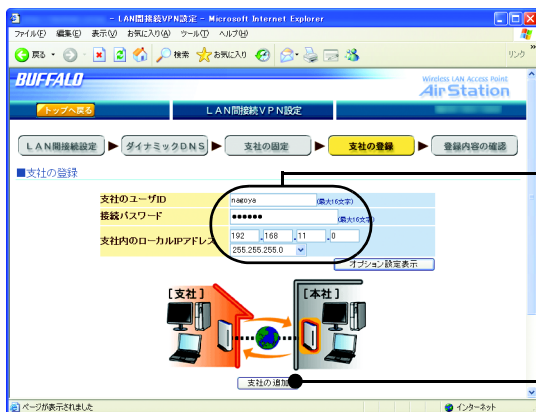
[進む]をクリックします。

20

支社側から接続する際に使用する設定用ホスト名を入力します。

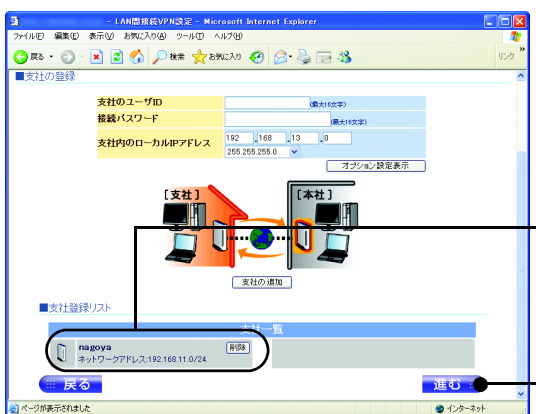
[進む]をクリックします。

メモ

- 設定用ホスト名とは、支社側から本社にアクセスする際に使用するアドレスです。例えば、設定用ホスト名を「osaka.sv」と設定すれば、外出先から「http://osaka.sv/hosts.htm」というアドレスで AirStation のネットワークサービス一覧画面(アクセスしたいパソコンやLinkStationを選択する画面)を表示できます。(P42)
- 設定用ホスト名は、必ずピリオド(.)で区切られた名称(例:honsya.net など)を設定してください。
- 設定用ホスト名に、すでにインターネット上に存在するアドレス(例:86886.jp など)を設定すると、支社側から AirStation にアクセスできないことがあります。

21

支社側から接続する際に使用するユーザIDとパスワード、支社内のローカルIPアドレスを設定します。

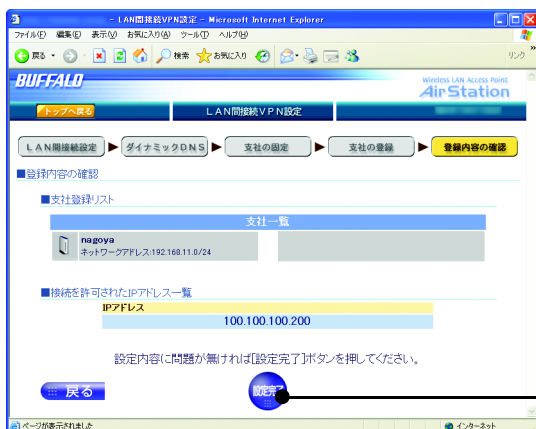
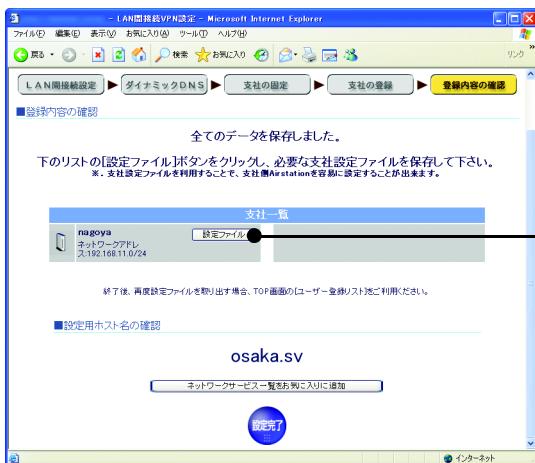
[支社の追加]をクリックします。

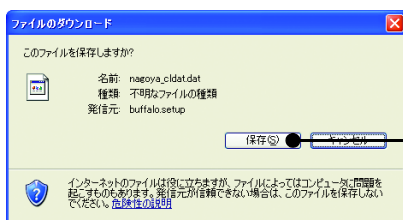
22

「支社一覧」に登録した支社が表示されることを確認します。

[進む]をクリックします。

23

[設定完了]をクリックします。

24

支社一覧に表示されている［設定ファイル］をクリックします。

25

［保存］をクリックし、設定ファイルを保存します。

26 ［設定完了］をクリックします。

以上で本社側の設定は完了です。

Step 6 AirStation の設定内容の送信

本社側の AirStation の設定が完了したら、 Step5 の手順 25 （P62） で作成した設定ファイルを支社へ送信します。

3.2 支社側の設定をしよう

Step 1 AirStation の設置と設定

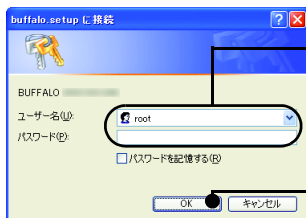
最初にAirStationの設置をおこなった後、インターネットに接続できるようにAirStationを設定します。

設置方法やインターネットへの接続方法は、「本社側の設定をしよう」(P48) の Step1 ～ 4 を参照してください。

Step 2 設定データの復元

インターネットに接続できたら、本社から送られてきた設定ファイルを AirStation に読み込みます。

⚠注意 設定ファイルを読み込むと、支社側のローカル IP アドレス (AirStation 出荷時は、192.168.12.0) が変更されます。そのままではインターネットに接続できなくなりますので、いったんパソコンを再起動してください。

1 AirStation の設定画面を表示します。

WEB ブラウザのアドレス欄に「buffalo.setup」と入力し、<Enter> キーを押します。

2

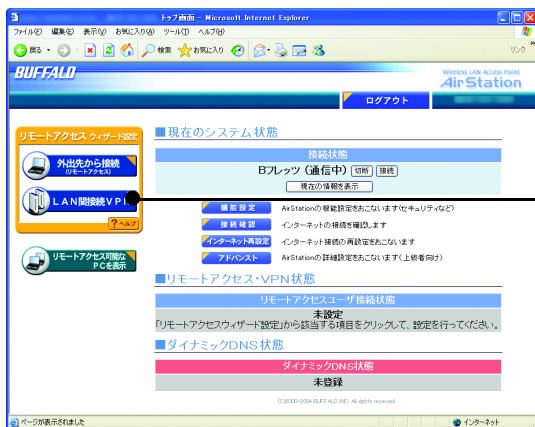
1 ユーザー名に「root」を入力します。パスワードを空欄にします。AirStation にパスワードを設定している場合は、設定したパスワードを入力してください。

2 [OK] をクリックします。

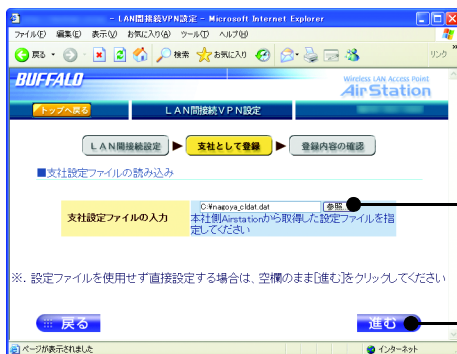
3 ネットワーク同士を接続する

3

［LAN 間接続 VPN］をクリックします。

4

［支社側（クライアント）の設定をする］をクリックします。

［進む］をクリックします。

5

参照ボタンをクリックして、本社から送られてきた設定ファイルがある場所を入力します。

［進む］をクリックします。

6

LAN間接続VPN設定 - Microsoft Internet Explorer

LAN間接続設定 ▶ 支社として登録 ▶ 登録内容の確認

■本社への接続設定の確認

接続する本社のアドレス	100.100.100.100
本社内のネットワーク	IPアドレス: 192.168.12.0 サブネットマスク: 255.255.255.0
接続に使用するユーザID	nagoya
接続に使用するパスワード	nagoya
本社とのRIPの送受信	☑使用する
本社をデフォルトルートにする	☐使用する

■支社内ネットワーク変更の確認

LAN側IPアドレス	IPアドレス: 192.168.11.1 サブネットマスク: 255.255.255.0
DHCPサーバ機能	⊙使用する ○使用しない 192.168.11.2 から 30 台を割り当てる

設定内容に問題が無ければ[設定完了]をクリックしてください。

1 確認　設定内容を確認します。

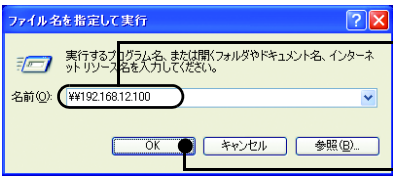
2 クリック　［設定完了］をクリックします。

7

1 確認　「LAN 間接続設定が完了しました」と表示されることを確認します。

2 クリック　［設定完了］をクリックします。

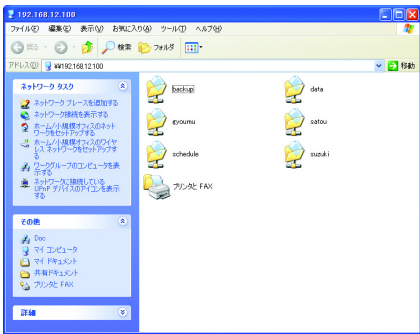
8 パソコンを再起動します。

以上で支社側の設定は完了です。

3.3 本社－支社間で通信しよう

ここまでの設定が完了したら、 本社 - 支社間を VPN で接続します。 VPN で接続するには、 最初に支社側から本社へ通信を始める必要があります。

ここでは例として、 支社から本社のファイルサーバ （IP アドレス ： 192.168.12.100） にアクセスする方法を説明します。 以下の手順でアクセスしてください。

1 ［スタート］ － ［ファイル名を指定して実行］ をクリックします。

2

「名前」に「¥¥(本社ファイルサーバーの IP アドレス)」（例 : ¥¥192.168.12.100）と入力します。

［OK］ をクリックします。

3

ファイルサーバー内のファイルが表示されてアクセスできるようになります。

以降は、 本社から支社への通信も可能となります。

第4章
付録

4.1 リモートデスクトップ（遠隔操作）の設定をするには

4.2 AOSS で設定された ESSID（SSID）と暗号化キーを確認するには

4.3 AOSS 機能を無効にするには

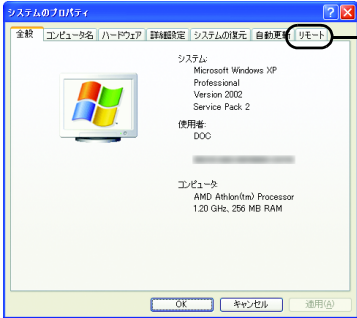
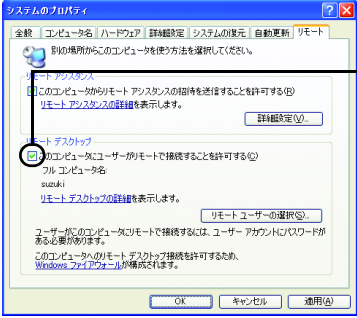
4.4 設定ガイド（電子マニュアル）を見るには

4.5 VPN で困ったときは

4.6 パッケージの内容

4.7 各部の名称とはたらき

4.8 製品仕様

4.1 リモートデスクトップ（遠隔操作）の設定をするには

Step 1 自宅 （遠隔操作される側） のパソコンの設定

自宅のパソコンの設定をします。

メモ

- アクセスできるユーザーは、コンピュータの管理者権限を持つユーザーのみになります。
- パソコンにパスワードが設定されていない場合は、以下の操作をおこなう前に、パスワードを設定してください。
- パスワードは、［スタート］－［コントロールパネル］内の［ユーザーアカウント］画面で設定することができます。

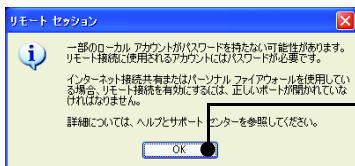
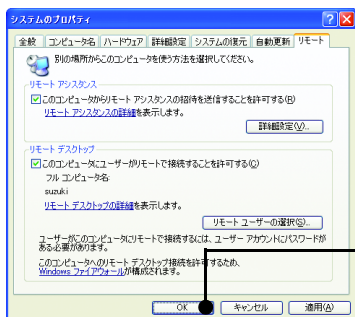
1 ［スタート］をクリックします。

2 ［マイコンピュータ］を右クリックし、［プロパティ］を選択します。

3

［リモート］をクリックします。

4

［このコンピュータにユーザーがリモートで接続することを許可する］をクリックしてチェックマークをつけます。

以上で自宅のパソコンの設定は完了です。

Step 2 外出先（遠隔操作する側）のパソコンの設定

外出先で使うパソコンの設定をします。

メモ
- 設定には、Windows XP Professional の CD-ROM が必要になります。あらかじめお手元にご用意ください。
- 以下のソフトウェアは、マイクロソフトのホームページからもダウンロードできます。（2004 年 9 月現在）

1 Windows XP Professional の CD-ROM をパソコンにセットします。

2

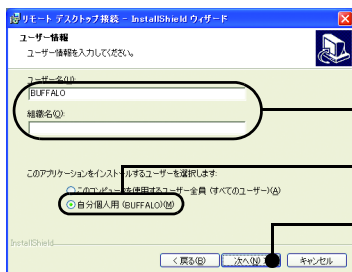
［追加のタスクを実行する］をクリックします。

3

［リモートデスクトップ接続をセットアップする］をクリックします。

4 インストーラが起動しますので、［次へ］をクリックします。

5 使用許諾契約を読み、同意できる場合は［使用許諾契約書に同意します］を選択して、［次へ］をクリックします。

6

メモ　ここで設定する内容を他のユーザーも使用する場合は、［このコンピュータを使用するユーザー全員］を選択してください。

7　［インストール］をクリックします。

8　「インストールが完了しました」と表示されたら、［完了］をクリックします。

以上で外出先で使うパソコンの設定は完了です。

4
付録

4.2 AOSS で設定された ESSID（SSID）と暗号化キーを確認するには

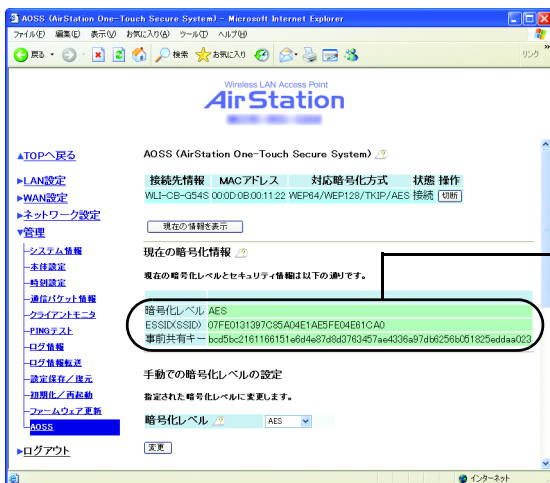
AOSS で設定された ESSID （SSID） や暗号化キーは、 以下の手順で確認できます。

1 AirStation の設定画面を表示します。

WEB ブラウザのアドレス欄に「buffalo.setup」と入力し、<Enter> キーを押します。

2 ［アドバンスト］をクリックします。

3 左のメニューから、「管理」－「AOSS」の順にクリックします。

4

暗号化レベル、ESSID（SSID）、暗号化キーを確認します。

4.3 AOSS 機能を無効にするには

暗号化キーを手動で設定したり、無線アダプタから AirStation を検索できなくする場合など、 無線に関する設定を手動でおこないたい場合は、 AOSS 機能を無効にする必要があります。 設定は以下の手順でおこないます。

メモ　AOSS 機能を無効にすると、AirStation の無線の設定が初期化されます。

1　AirStation の設定画面を表示します。

WEB ブラウザのアドレス欄に「buffalo.setup」と入力し、<Enter> キーを押します。

2　[アドバンスト] をクリックします。

3　左のメニューから、「管理」－「AOSS」の順にクリックします。

4　「AOSS データの削除」欄にある「　」をクリックします。

5　「AOSS データを削除しますか？」と表示されたら、[はい] をクリックします。

6　無線アダプタから AirStation に接続できなくなりますので、AirNavigator CD 内の「AirStation 設定ガイド」を参照して、AirStation に再接続します。

メモ　AirNavigator CD から「マニュアルを読む」→「無線機能の設定を変更したい」を参照してください。

4

付録

4.4 設定ガイド（電子マニュアル）を見るには

NTT フレッツ・スクウェアの設定方法や AirStation 同士で通信する場合の設定方法など、さらに細かな設定をする場合は、添付の CD-ROM（Air Navigator CD）に収録されている「AirStation 設定ガイド」を参照してください。AirStation 設定ガイドは、以下の手順で見ることができます。

1 CD-ROM（AirNavigator CD）をパソコンにセットします。

2

1 クリック ［マニュアルを読む］をクリックします。

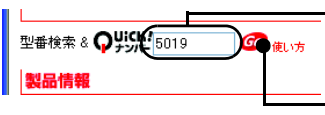
2 クリック ［実行］をクリックします。

3

AirStation設定ガイドが表示されます。

4.5 VPN で困ったときは

外出先から自宅のパソコンにアクセスできないなど、 VPN で困ったときは、 以下の手順で弊社ホームページの Q&A を参照してください。

メモ　インターネットに接続できない場合など、VPN 以外で困ったときは、AirNavigator CD 内の「困ったときは」を参照してください。

1 WEB ブラウザを起動します。

2

1 入力　アドレス欄に「buffalo.jp」と入力し、<Enter> キーを押します。

3

1 入力　「型番検索 &Quick! ナンバー」欄に「5019」と入力します。

2 クリック　[Go] をクリックします。

以上で Q&A ページが表示されます。

4 付録

4.6 パッケージの内容

万一、 不足しているものがありましたら、 お買い求めの販売店にご連絡ください。

お客様の商品は、無線アダプタ（子機）が入っていないモデル、または無線アダプタ（子機）が入っているモデルのどちらかになります。

□AirStation 1台

親機のみ

縦置き用スタンド.... 1個
※出荷時は、親機から外れた状態で梱包されています。

または

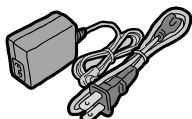
□AirStation 1台

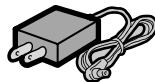
親機

無線アダプタ.......... 1個

子機

縦置き用スタンド.... 1個
※出荷時は、親機から外れた状態で梱包されています。

□ACアダプタ 1個
下記のどちらか一方のACアダプタが入っています。

※ アダプタ本体とケーブルに分かれて梱包されています。

または

※ アダプタとケーブルが一体になっています。

□LANケーブル（ストレート）
.... 1本

□AirNavigator CD
.... 1枚

□AirStation導入ガイド（本書）.. 1冊

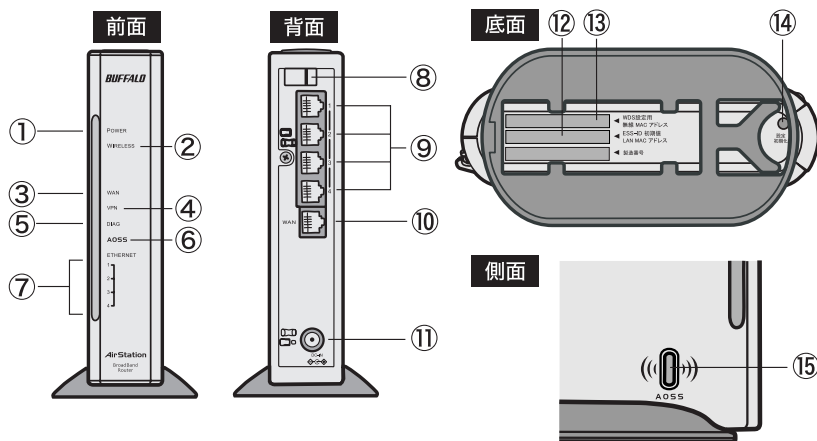
□無線LAN設定サービス申込書 1枚

□安全にお使いいただくために必ずお読みください（保証書つき）.......................... 1枚

※ 追加情報が別紙で添付されている場合は、 必ず参照してください。

※ 本製品は、 GPL の適用ソフトウェアを使用しており、 これらのソースコードの入手、 改変、 再配布の権利があります。 詳細は、 添付 CD-ROM 内の 「gpl.txt」 をご覧ください。

4.7 各部の名称とはたらき

■ AirStation （親機）

① POWER ランプ （緑）	点灯：AC アダプタ接続時 消灯：AC アダプタ未接続時
② WIRELESS ランプ （緑）	点灯：無線 LAN 接続が有効時 点滅：無線 LAN 通信中
③ WAN ランプ （緑）	点灯：リンク時 点滅：通信時
④ VPN ランプ （緑）	点灯：外部から VPN でアクセスされている時 ※ LAN 間接続 VPN（本社ー支社の拠点間通信）をご利用の場合は、本社側の VPN ランプのみ点灯します。
⑤ DIAG ランプ （赤）	点滅回数により AirStation（親機）の状態を示します。 ※ 親機の電源を投入した際にも、しばらく点灯します。

状態	内容	内容
1 回点滅※1	RAM 異常	内部メモリの読み書きができません。
2 回点滅※1	フラッシュ ROM 異常	フラッシュメモリの読み書きができません。
3 回点滅※1	有線 LAN 異常	有線 LAN コントローラが故障しています。
4 回点滅※1	無線 LAN 異常	無線 LAN コントローラが故障しています。
5 回点滅※1	IP アドレス設定異常	WAN ポートと LAN ポートのネットワークアドレスが同じのため通信できません。AirStation（親機）の LAN 側 IP アドレスの設定を変更してください。
9 回点滅※1	上記以外の異常	
連続点滅※2	ファームウェア更新中 設定保存中	ファームウェアを更新しています。 設定を保存しています。

※1 一度、AC アダプタをコンセントから抜いて、しばらくしてから再度差し込んでください。再びランプが点滅している場合は、弊社修理センター宛てに AirStation をお送りください。

※2 ファームウェア更新中と設定保存中は、絶対に AC アダプタをコンセントから抜かないでください。

⑥ AOSS ランプ (橙)

点灯：セキュリティキー交換処理に成功（AOSS 成功）
２回点滅：セキュリティキー交換処理を行える状態（AOSS 待機中）
点滅：セキュリティキー交換処理に失敗（AOSS 失敗）

⑦ ETHERNET ランプ (緑)

点灯：各 LAN ポートのリンク時
点滅：各 LAN ポートの通信時

⑧ 外部アンテナ用コネクタ

カバーを横にずらして、別売の外部アンテナを接続します。

〈WZR-RS-G54HP でご利用いただけるアンテナ〉
（2004 年 11 月現在）

・WLE-NDR　・WLE-MYG　・WLE-DA　・WLE-HG-DA
・WLE-HG-DYG

※ 弊社製 WLE-HG-NDC は、WZR-RS-G54HP と組み合わせると電波法に違反するため、使用できません。

※ 詳細は、弊社ホームページ（buffalo.jp）をご覧ください。

⑨ LAN ポート (Switch)

パソコン / ハブを接続します。10M/100M 対応スイッチングハブです。

⑩ WAN ポート

ADSL/ ケーブルモデムを接続します。10M/100M 対応です。

⑪ DC コネクタ 付属の AC アダプタを接続します。

⑫ ESS-ID 初期値　LAN MAC アドレス

AirStation の ESSID（SSID）の初期値が記載されています。「000D0B」から始まる 12 桁の値です。

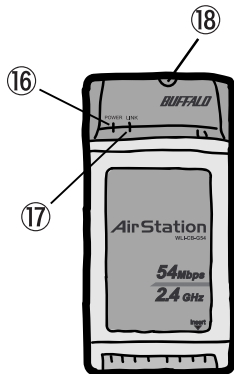
⑬ WDS 設定用 無線 MAC アドレス

WDS/ リピータ機能を使うときに設定する、無線 MAC アドレスが記載されています。

⑭ 設定初期化スイッチ AirStation の電源を入れた状態で、DIAG ランプが消灯するまで（約 3 秒間）スイッチを押し続けると、AirStation が初期化されます。

⑮ AOSS ボタン AirStation の電源を入れた状態で、前面パネルにある AOSS ランプが 2 回点滅するまで（約 3 秒間）スイッチを押すと、AirStation がセキュリティキー交換処理を行える状態（AOSS 動作状態）になります。

■　無線アダプタ　（子機）

※　無線アダプタセットモデルの方のみ

⑯ POWER ランプ　（緑） 点灯：動作時

⑰ LINK ランプ　（緑） 点滅：データ送受信時

⑱ アンテナコネクタ 別売の外付けアンテナを接続します。ふたを外してから接続します。

4.8 製品仕様

■ 主な仕様

データ転送速度	10/100Mbps(自動認識)
ポート数	LAN ： 4 ポート、 WAN ： 1 ポート (LAN ポート、 WAN ポートともに AUTO-MDIX 対応)
消費電力	最大 6.5W(WZR-RS-G54HP) 最大 6.0W(WZR-RS-G54)
動作温度 / 動作湿度	0 ～ 40 ℃ /20 ～ 80%(結露なきこと)
外形寸法 (スタンド除く)	38(W) × 174(H) × 140(D)mm

■ 主な出荷時設定

項目	出荷時設定
LAN 設定	
ESSID（SSID）	AirStation の LAN MAC アドレスを設定
無線チャンネル	11 チャンネル
DTIM Period	1
LAN 側 IP アドレス	192.168.12.1（255.255.255.0）
フレームバースト	フレームバースト EX
802.11g プロテクション	ON
DHCP サーバ機能	使用する 割り当て IP アドレス　：192.168.12.2 から 16 台 デフォルトゲートウェイ　：AirStation の IP アドレス DNS サーバの通知　：AirStation の IP アドレス
WAN 設定	
WAN 側有線の通信方式	自動
ネットワーク設定	
パケットフィルタ	NBT と Microsoft-DS のルーティングを禁止する、IDENT の要求を拒否する
管理	
管理ユーザ名・パスワード	root　/　設定なし

本製品の製品仕様および製品概要については、CD-ROM「AirNavigator CD」内 AirStation 設定ガイドを参照してください。
すべての出荷時設定値は、AirStation 設定ガイドの「機能一覧」に記載されています。

切り取り

保　証　契　約　約　款

この約款は、お客様が購入された弊社製品について、修理に関する保証の条件等を規定するものです。お客様が、この約款に規定された条項に同意頂けない場合は保証契約を取り消すことができますが、その場合は、ご購入の製品を使用することなく販売店または弊社にご返却ください。なお、この約款により、お客様の法律上の権利が制限されるものではありません。

第1条（定義）
1 この約款において、「保証書」とは、製品名および保証期間を予め記入したうえで弊社が修理を保証する旨を約して発行された証明書をいいます。
2 この約款において、「故障」とは、お客様が正しい使用方法に基づいて製品を作動させた場合であっても、製品が正常に機能しない場合をいいます。
3 この約款において、「無償修理」とは、製品が故障した場合、弊社が無償で行う当該故障箇所の修理をいいます。
4 この約款において、「無償保証」とは、この約款に規定された条件により、弊社がお客様に無償修理をお約束することをいいます。
5 この約款において、「有償修理」とは、製品が故障した場合であって、無償保証が適用されないとき、お客様から費用を頂戴して弊社が行う当該故障箇所の修理をいいます。
6 この約款において、「製品」とは、弊社が販売に際して梱包されたもののうち、本体部分をいい、付属品および添付品などは含まれません。

第2条（無償保証）
1 製品が故障した場合、お客様は、保証書に記載された保証期間内に弊社に対し修理を依頼することにより、無償保証の適用を受けることができます。但し、次の各号に掲げる場合は、保証期間内にあっても無償保証の適用を受けることができません。
2 修理をご依頼される際に、保証書をご提示頂けない場合。
3 ご提示頂いた保証書が、製品名および製品シリアルNo.等の重要事項が未記入または修正されていること等により、偽造された疑いがある場合。
4 お客様が製品をお買いあげ頂いた後、お客様による運送または移動に際し、落下または衝撃等に起因して故障または破損した場合。
5 お客様における使用上の誤り、不当な改造もしくは修理、または、弊社が指定するもの以外の機器との接続により故障または破損した場合。
6 火災、地震、落雷、風水害、その他天変地異、または、異常電圧などの外部的要因により、故障または破損した場合。
7 消耗部品が自然摩耗または自然劣化し、消耗部品を取り替える場合。
8 前各号に掲げる場合のほか、故障の原因が、お客様の使用方法にあると認められる場合。

第3条（修理）
この約款の規定による修理は、次の各号に規定する条件の下で実施します。
1 修理のご依頼時には製品を弊社修理センターにご送付ください。修理センターについては本紙「修理について」をご確認ください。
尚、送料は送付元負担とさせていただきます。また、ご送付時には宅配便など送付控えが残る方法でご送付ください。郵送は固くお断り致します。
2 修理は、製品の分解または部品の交換若しくは補修により行います。但し、万一、修理が困難な場合または修理価格が製品価格を上回る場合には、補償対象の製品と同等またはそれ以上の性能を有する他の製品と交換することにより対応させていただくことがあります。
3 ハードディスクの修理に関しましては、修理の内容により、ディスク若しくは製品を交換する場合またはディスクをフォーマットする場合などがございますが、修理の際、弊社が記憶されたデータについてバックアップを作成致しません。
4 無償修理により、交換された旧部品または旧製品等は、弊社にて適宜廃棄処分させて頂きます。
5 有償修理により、交換された旧部品または旧製品等についても、弊社にて適宜廃棄処分させていただきますが、修理をご依頼された際にお客様からお知らせ頂ければ、旧部品等を返品致します。但し、部品の性質上ご意向に添えない場合もございます。

第4条（免責事項）
1 お客様がご購入された製品について、弊社に故意または重大な過失があった場合を除き、債務不履行または不法行為に基づく損害賠償責任は、当該製品の購入代金を限度と致します。
2 お客様がご購入された製品について、隠れた瑕疵があった場合は、この約款の規定にかかわらず、無償にて当該瑕疵を修理しまたは瑕疵のない製品または同等品に交換致しますが、当該瑕疵に基づく損害賠償の責に任じません。
3 弊社における保証は、お客様がご購入された製品の機能に関するものであり、ハードディスク等のデータ記憶装置について、記憶されたデータの消失または破損について保証するものではありません。

第5条（有効範囲）
この約款は、日本国内においてのみ有効です。また、海外でのご使用につきましては、弊社はいかなる保証も致しません。

切り取り

切り取り

保　証　書

この製品は厳密な検査に合格してお届けしたものです。
お客様の正常なご使用状態で万一故障した場合は、この保証書に記載された期間、条件の下に置いて修理を致します。
・修理は必ずこの保証書を添えてご依頼ください。
・この保証書は再発行致しませんので大切に保管してください。

株式会社バッファロー

本社　〒457-8520　名古屋市南区柴田本通四丁目15番

お　名　前	フリガナ
ご　住　所	〒 TEL：（　　）　　ー

製　品　名	
保証期間	ご購入日より１年間
ご購入日 ※販売店様記入欄	年　　月　　日 ご購入日が確認できる書類（レシートなど）を添付の上、修理をご依頼ください。

※以下は弊社内での業務連絡として使用しますのでお客様はご記入なさらないでください。

年　月　日	サ　ー　ビ　ス　内　容	担　当

切り取り

お問い合わせ・修理窓口

お問い合わせ、修理については、以下の順にてお願い致します。

1 **マニュアル、オンラインガイドにて設定内容・トラブルシューティングをご確認ください。**

2 **弊社ホームページにて最新Q&A情報、最新ドライバ・ファームウェアをご確認ください。**

インターネット　製品情報　buffalo.jp
サポート情報　86886.jp（ハローバッファロー）

3 **上記で改善しない場合は、次の窓口にお問い合わせください。**
バッファローサポートセンター

お問合せの際は、以下「必要な情報」③～⑦をあらかじめご確認ください。

電話でのお問い合わせ先　※電話番号のお掛け間違いがないようご注意ください。

【電話窓口】
電話番号 （東　京） 03-5781-7435 月～金 9:30-19:00 土 9:30-18:00
電話番号 （名古屋） 052-619-1825 月～金 （祝日除く） 9:30-17:00

【有料電話窓口】 電話番号 03-5781-7619 365日 9:30-21:00
・対象製品　弊社ネットワーク製品(法人向け製品を除く)
・費用：2,100円/案件(税抜 2,000円)
・支払方法：クレジットカード(NICOS、VISA、MASTER、JCB、アメリカン・エキスプレス)

手紙でのお問い合わせ先　住所　〒457-8520　名古屋市南区柴田本通4-15

4 **修理は、以下へご依頼ください。**　※修理に送られる際、弊社への事前連絡は不要です。
バッファロー修理センター

保証書について　修理送付前に本製品添付の保証書記載の保証契約約款をよくお読み下さい。
修理web予約　弊社ホームページより修理のweb予約、受付けた修理品の状況確認が可能です。
http://buffalo.jp/shuri/
送付先住所　〒456-0023　愛知県名古屋市熱田区六野二丁目１番３号　中京倉庫２７号棟
株式会社バッファロー修理センター　受付宛
電話番号　052-883-0570　※ご依頼の修理品に関するお問合せのみ承っております。
送付いただく物　本製品、本製品付属品、保証書（原本）、修理票(*)
*修理票は弊社ホームページよりダウンロード可能です。修理票添付が困難な場合は、以下「必要な情報」を記載した資料を製品と一緒にお送りください。

【注意事項】
※発送は宅配便等控えが残る方法にてお送りください。控えが残らない郵送は固くお断りします。
※修理依頼時の送料は、送り主様の負担とさせていただきます。なお、輸送中の事故においては、弊社は責任を負いかねます。輸送会社に保証していただくなどの措置をお取りください。
※ハードディスク、フラッシュメモリ等の記憶装置内のデータは保証できませんので、修理に送付される前に予めお客様にてバックアップをとっていただきますようお願いします。
※AirStation、BroadStation、Link Stationは、修理の際に出荷時の状態に戻す為、設定内容（接続ユーザ名/パスワード/無線暗号キー（WEP）等）を消去します。
修理完了後、再度設定が必要となりますので、ご送付前に必ず設定内容を控えてください。
※修理期間は、製品の到着後10日程度（弊社営業日数）を予定しております。

5 **ユーザ登録について**
弊社ホームページ（https://online.buffalo.jp/）ユーザ登録が可能です。
※ユーザ登録された方には、弊社製品に関する情報をお届けします。

必要な情報

①返送先（氏名・住所・電話番号(内線)・FAX番号）
②平日昼間の連絡先
（氏名・住所・電話番号(内線)・FAX番号）
③バッファロー製品名
④バッファロー製品のシリアルナンバー
⑤具体的な症状／エラーメッセージ
⑥発生状況（初めから・ある日突然等）、
発生頻度（必ず、時々、時間が経つと等）
⑦ご使用環境(パソコン機種名、OS(Windows XP等)、周辺機器)
⑧製品以外の添付品(ACアダプタ、ケーブルなど)

※受付時間や電話番号などは、変更されることがあります。最新の内容は、弊社ホームページでご確認ください。
※This product supports only Japanese language.
Technical and customer support is limited to Japan only.
This product supports Japanese language Operating Systems ONLY.

PY00-30137-DM10-02　2-01　C10-005